

令和 2 年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

令和 2 年 11 月

福島県

目 次

	頁
I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査実施概要	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の構成	2
II 調査結果の解説	
1. 復興等に関する情報発信について	5
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報	5
(2) 復興状況や新しい取組に関する情報の入手先	6
(3) 福島県の広報活動についての満足度	7
(4) 福島県の現状について県外に伝えたいこと	9
2. キャッシュレス決済サービスの利用について	10
(1) 利用しているスマホ決済サービス	10
(2) 利用してみたいスマホ決済サービス	11
(3) 公共料金や税金の支払い方法	12
3. 安全で安心な県づくりについて	13
(1) 地域の安全・安心についての評価	13
4. 県総合計画について	15
(1) 福島県の現状についての評価	15
5. 福島イノベーション・コースト構想について	18
(1) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取組	18
(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組	20
(3) 福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策	21
6. チャレンジふくしま県民運動について	22
(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況	22
(2) 心身の健康づくりの実践状況	23
(3) 心身の健康づくりを実践していない理由	24
7. 水環境について	25
(1) 水環境の満足度	25
8. ごみ対策について	27
(1) ごみ対策への関心度と意向	27

9. 食育について	29
(1) 食育の関心度	29
(2) 共食の頻度	30
(3) 実践している食育に関する活動	31
10. 農林水産業について	32
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践していること	32
(2) 農山漁村の役割として期待すること	33
11. 福島県総合教育計画について	34
(1) 福島県の教育に対する評価	34
(2) 重要だと思う教育施策	36
(3) 今後取り入れていくべき学び方	37
12. 地域社会の安全・安心（治安）について	39
(1) 居住地域の治安状況	39
(2) 治安状況が良いと思う理由	40
(3) 治安状況が悪いと思う理由	41
(4) 犯罪発生状況等の情報提供方法	42
(5) 犯罪に関して知りたい情報	43
(6) 警察に強化してほしい活動	44
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪	45
(8) 身近に感じる不安	47

Ⅲ 調査票様式

Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100％にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100％を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100％が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2. 調査実施概要

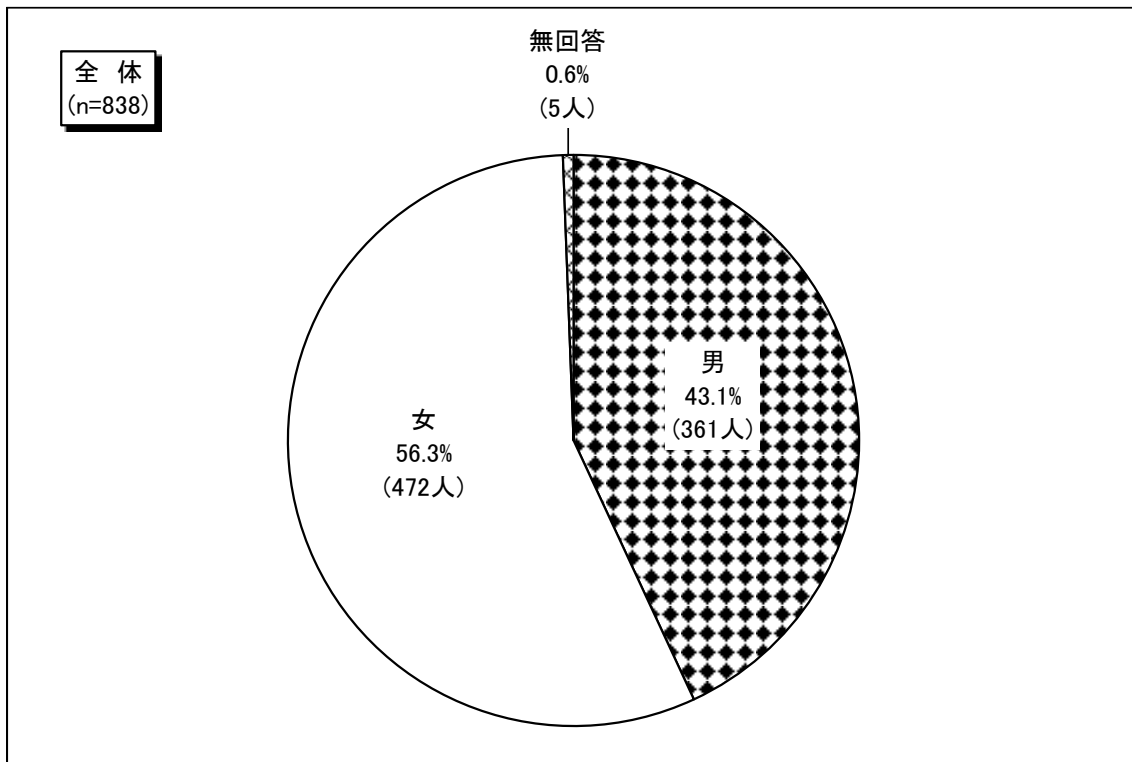
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（28市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 1,300（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 基準日 | 令和2年8月1日
（抽出にあたっては上記年月日現在の満年齢を基準とした） |
| (6) 調査方法 | 郵送調査（自記式アンケート） |
| (7) 調査期間 | 令和2年7月21日～8月4日 |
| (8) 回収結果 | 有効回収数838（有効回収率64.5%） |

3. 調査項目

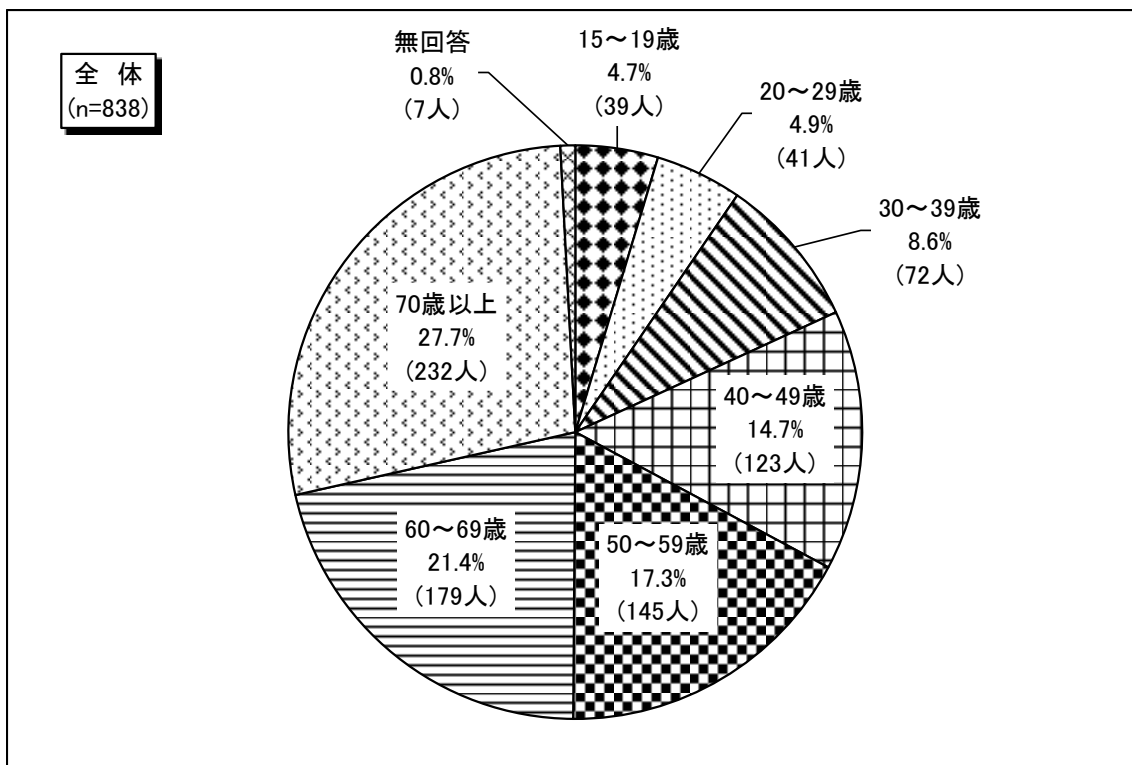
- (1) 『復興等に関する情報発信』について
- (2) 『キャッシュレス決済サービスの利用』について
- (3) 『安全で安心な県づくり』について
- (4) 『県総合計画』について
- (5) 『福島イノベーション・コースト構想』について
- (6) 『チャレンジふくしま県民運動』について
- (7) 『水環境』について
- (8) 『ごみ対策』について
- (9) 『食育』について
- (10) 『農林水産業』について
- (11) 『福島県総合教育計画』について
- (12) 『地域社会の安全・安心（治安）』について

4. 回答者の構成

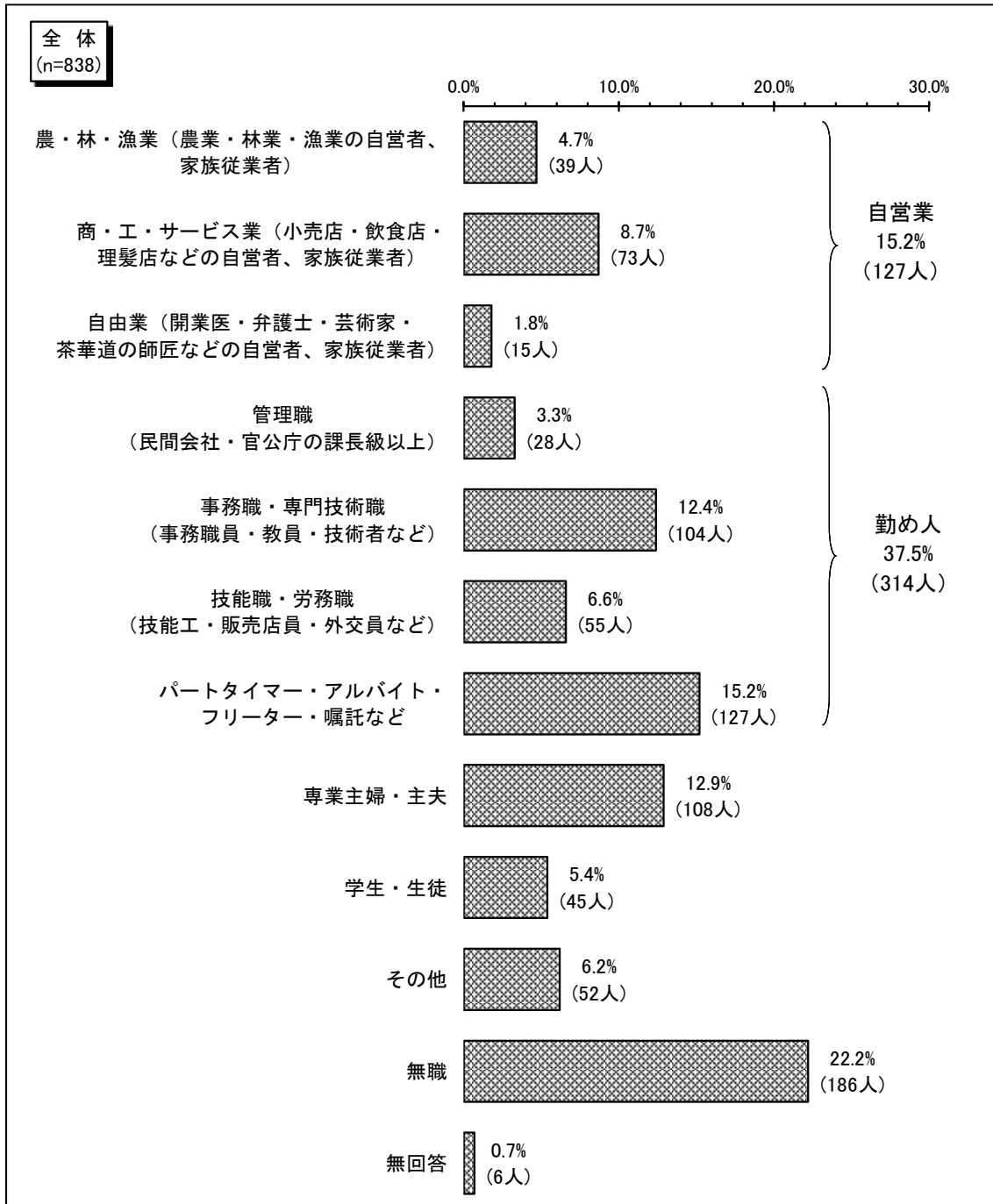
(1) 性別



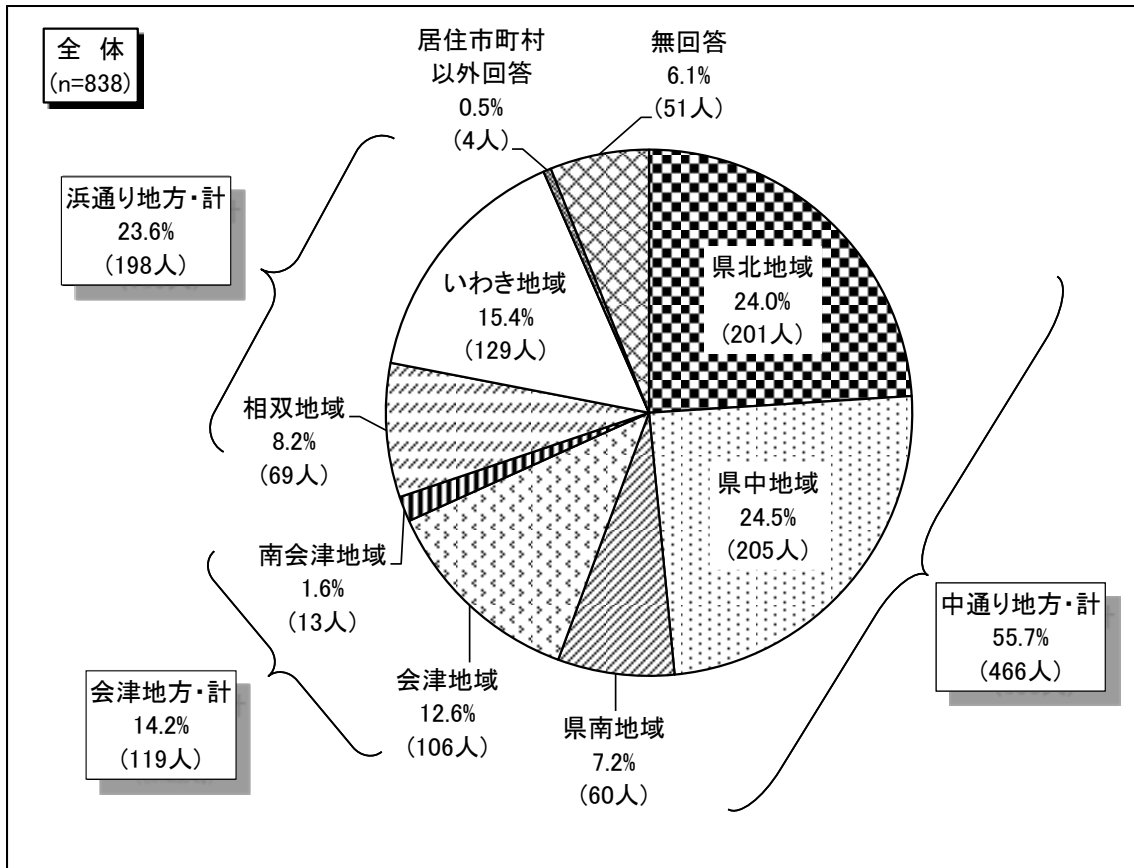
(2) 年齢



(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中通り 地方	県北地域	福島市	125	14.9
		二本松市	27	3.2
		伊達市	26	3.1
		本宮市	9	1.1
		国見町	9	1.1
		大玉村	5	0.6
		郡山市	119	14.2
	県中地域	須賀川市	28	3.3
		田村市	20	2.4
		天栄村	12	1.4
		平田村	14	1.7
		三春町	12	1.4
		白河市	26	3.1
県南地域	西郷村	11	1.3	
	矢吹町	15	1.8	
	鮫川村	8	1.0	

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
会津 地方	会津地域	会津若松市	54	6.4
		喜多方市	20	2.4
		磐梯町	8	1.0
		会津坂下町	13	1.6
		柳津町	11	1.3
		A 下郷町	13	1.6
	浜通り地方	相双地域	相馬市	18
南相馬市	25	3.0		
広野町	8	1.0		
川内村	6	0.7		
新地町	12	1.4		
B いわき市	129	15.4		
		居住市町村以外回答	4	0.5
		居住市町村別無回答	51	6.1
		全体	838	100.0

A 南会津地域

B いわき地域

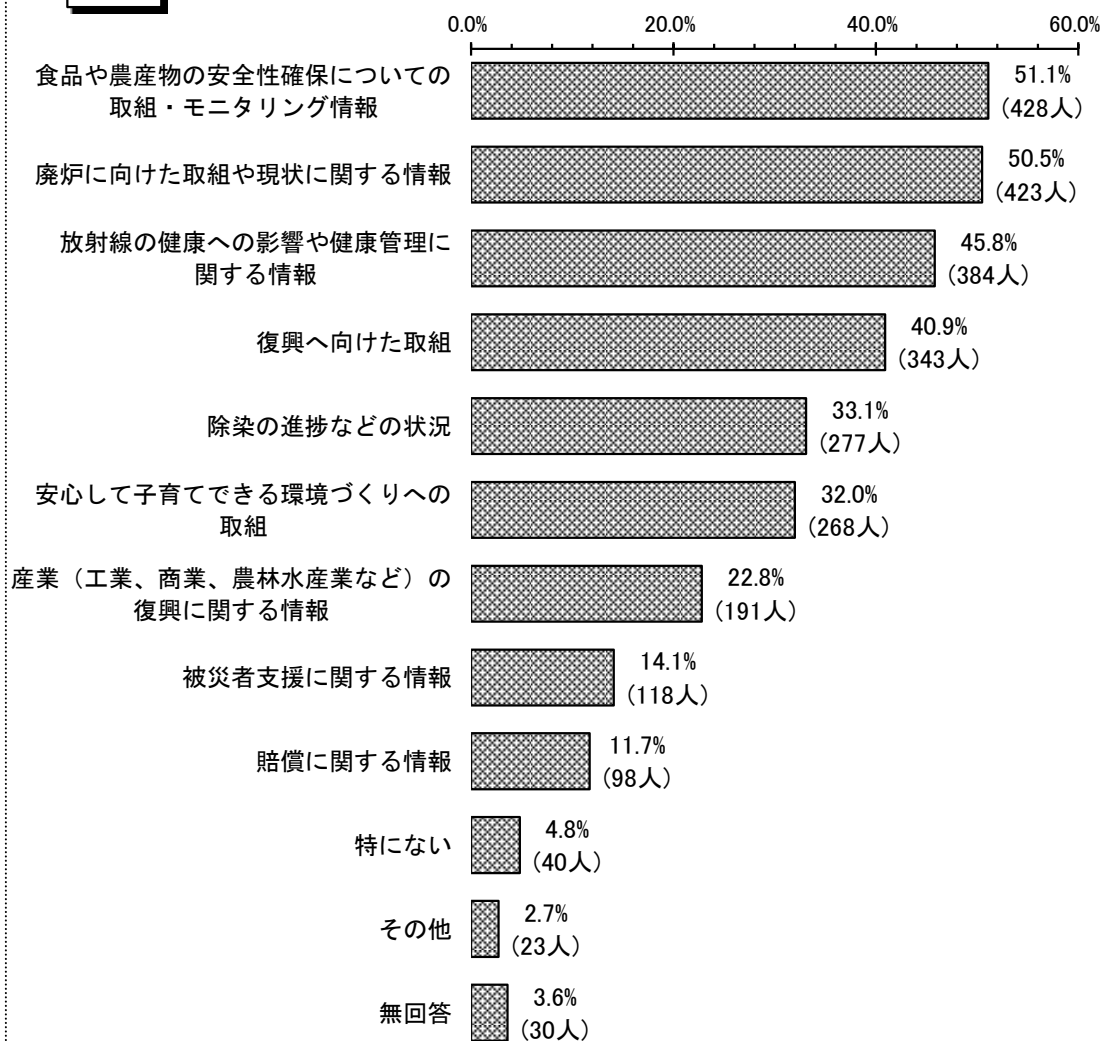
Ⅱ 調査結果の解説

1. 復興等に関する情報発信について

(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

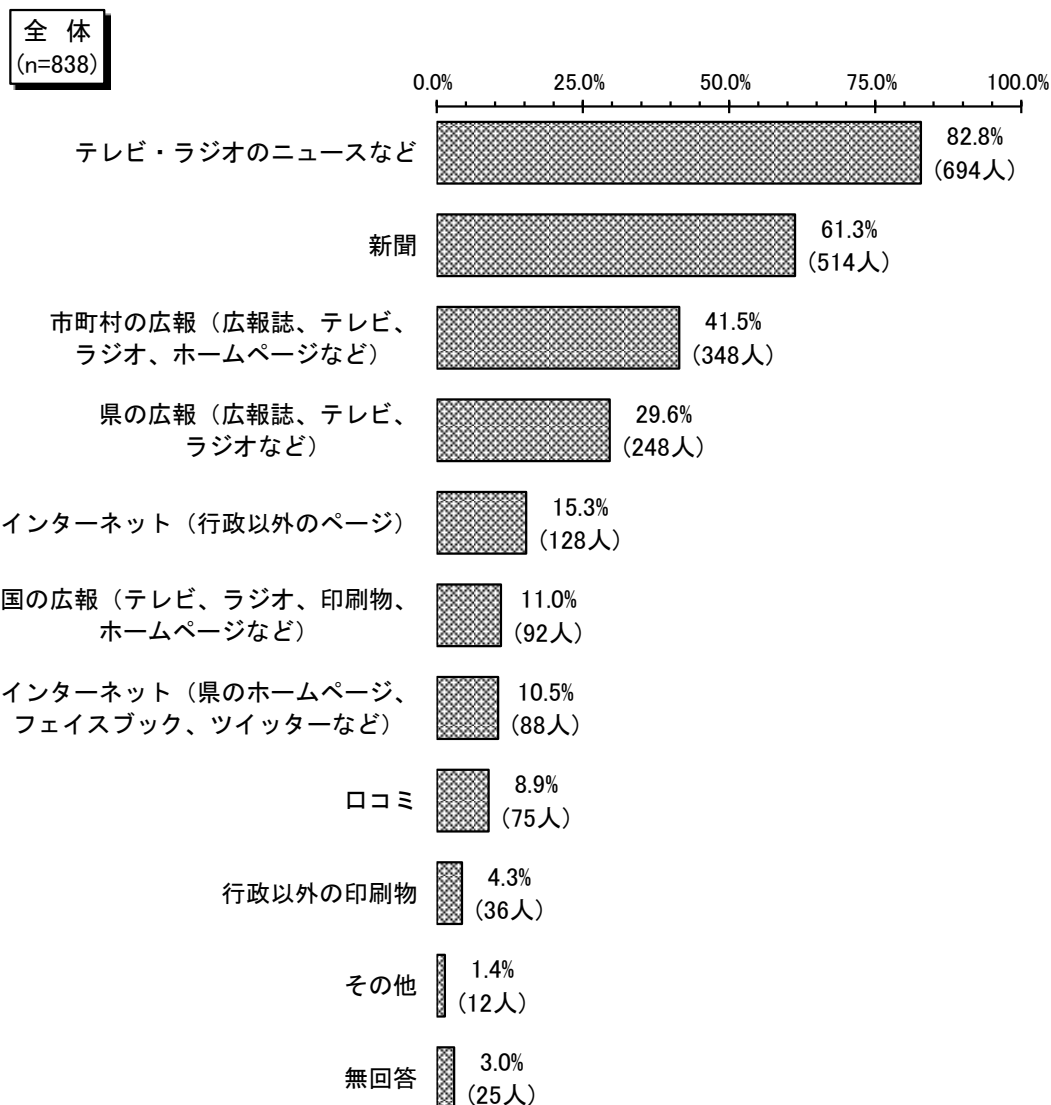
全体
 (n=838)



震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性確保についての取組・モニタリング情報」(51.1%)と「廃炉に向けた取組や現状に関する情報」(50.5%)が約半数を占めている。以下、「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(45.8%)と「復興へ向けた取組」(40.9%)が4割台、「除染の進捗などの状況」(33.1%)と「安心して子育てできる環境づくりへの取組」(32.0%)が3割台などとなっている。

(2) 復興状況や新しい取組に関する情報の入手先

問2 本県の復興の状況や新しい取組に関する情報については主に何で入手していますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



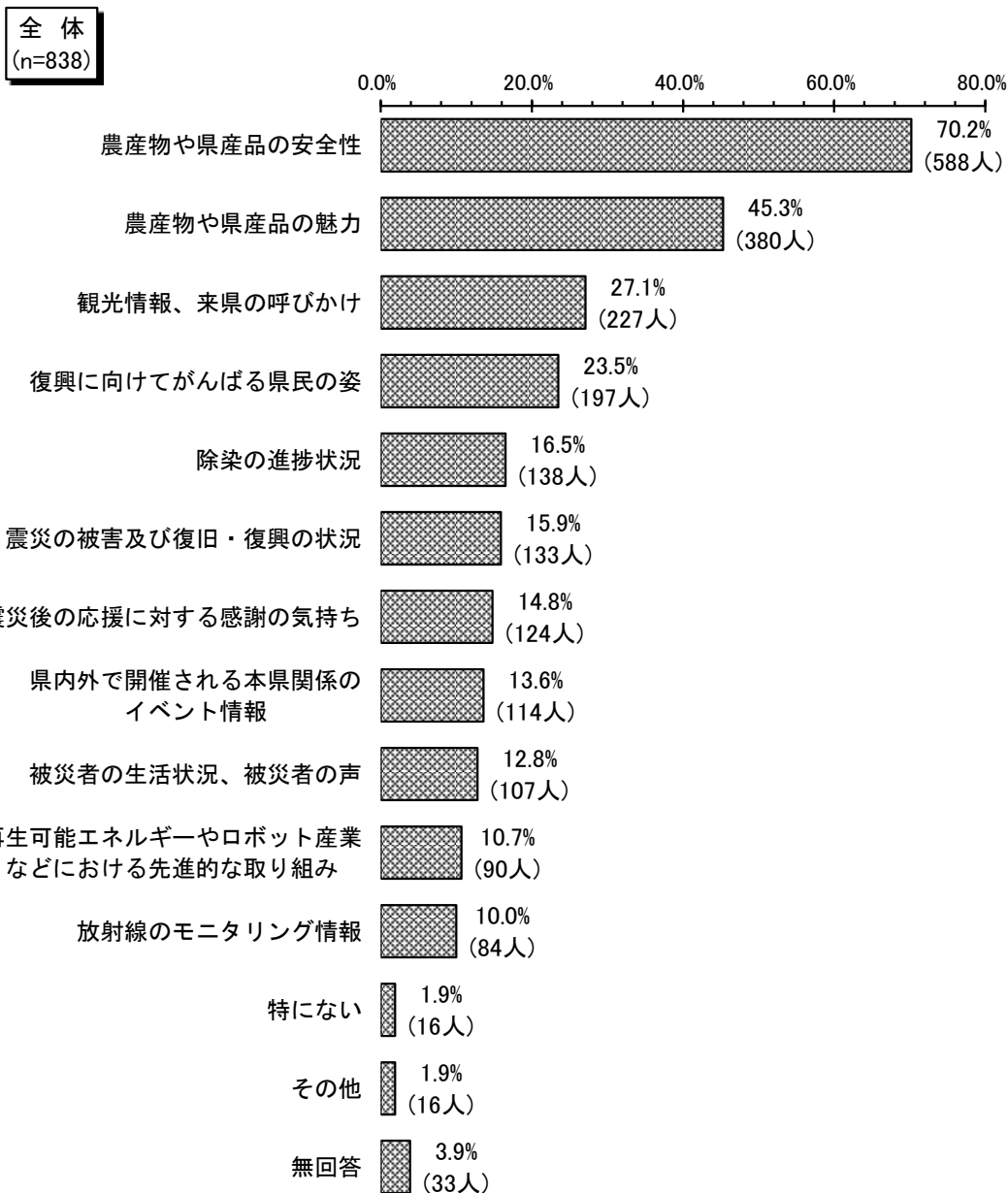
復興の状況や新しい取組に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースなど」(82.8%)が最も多く、8割強を占めている。以下、「新聞」(61.3%)が約6割、「市町村の広報（広報誌、テレビ、ラジオ、ホームページなど）」(41.5%)が約4割、「県の広報（広報誌、テレビ、ラジオなど）」(29.6%)が約3割などとなっている。

福島県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈イ 新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（53.1%）が最も多く、過半数を占めている。以下、〈ア 広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（47.1%）が半数弱、〈ウ テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（29.1%）が約3割、〈エ テレビ『ふくしまチャレンジ情報館（福島中央テレビ：毎週土曜日 20:54～20:57）』〉（27.2%）が3割弱などとなっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈ア 広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（19.6%）が約2割で最も高くなっている。次いで、〈イ 新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（17.4%）が2割弱で続いている。以下、〈ウ テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（12.6%）、〈エ テレビ『ふくしまチャレンジ情報館（福島中央テレビ：毎週土曜日 20:54～20:57）』〉（12.3%）などとなっている。

(4) 福島県の現状について県外に伝えたいこと

問4 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



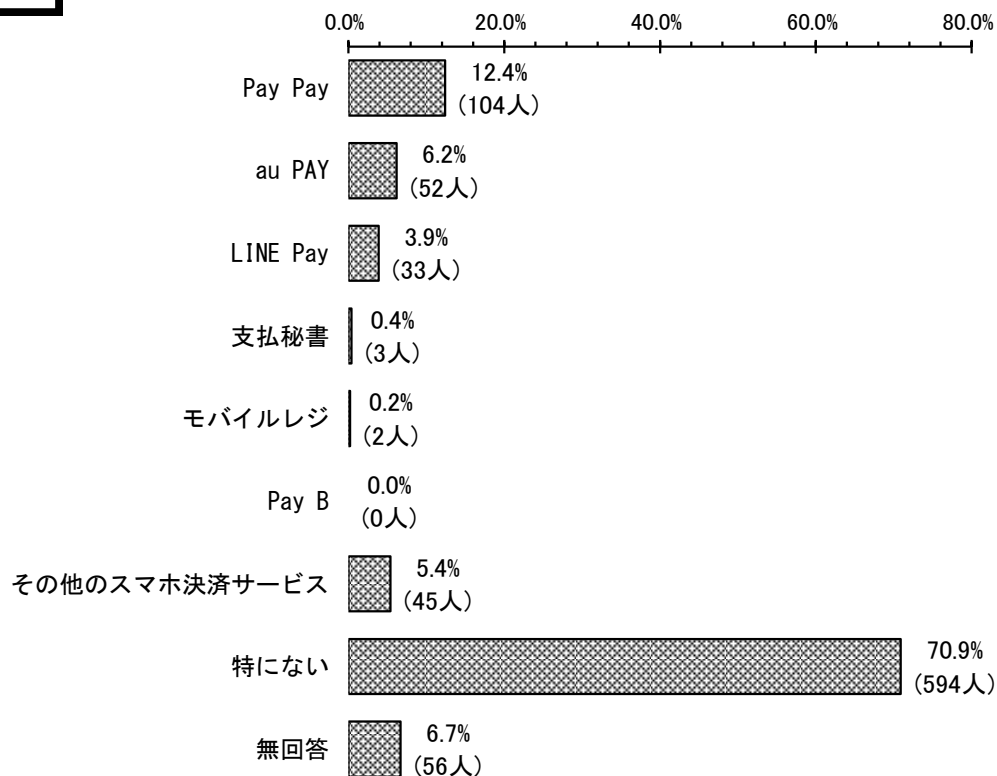
福島県の現状について県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性」(70.2%)が最も多く、約7割を占めている。以下、「農産物や県産品の魅力」(45.3%)が半数弱、「観光情報、来県の呼びかけ」(27.1%)が3割弱、「復興に向けてがんばる県民の姿」(23.5%)が2割強などとなっている。

2. キャッシュレス決済サービスの利用について

(1) 利用しているスマホ決済サービス

問5 スマートフォンなどのアプリケーションを使用し、QRコード（バーコード含む）を読み取ってキャッシュレス決済を行う、いわゆる「スマホ決済サービス」について、利用しているものにもいくつかOをつけてください。

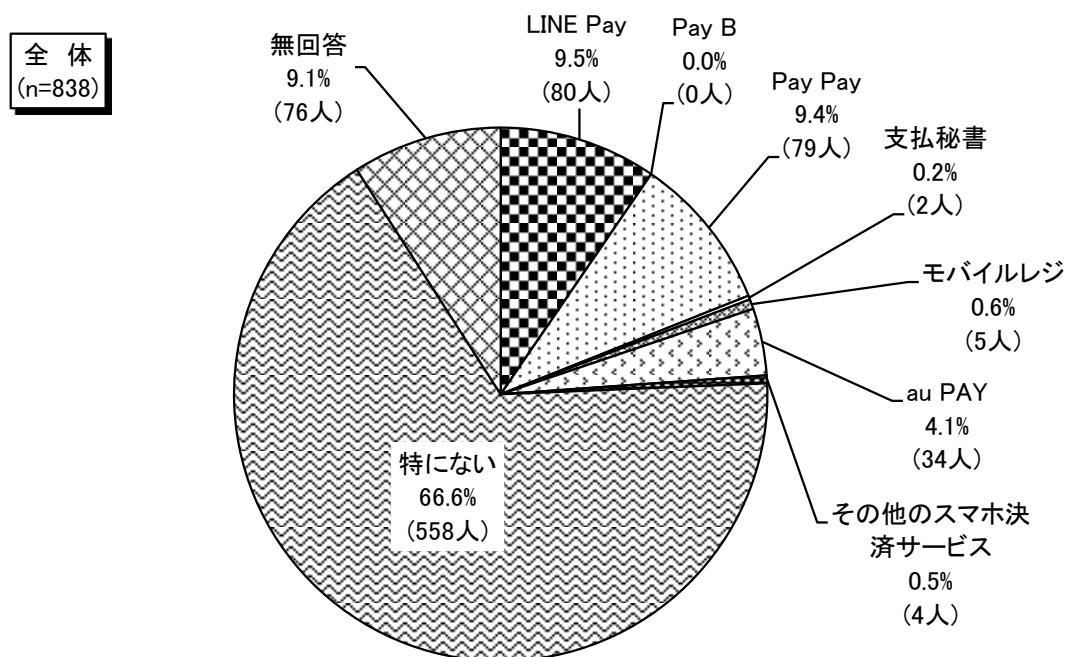
全体
(n=838)



利用しているスマホ決済サービスは「特にない」（70.9%）が突出して多く、約7割を占めている。以下、「Pay Pay」（12.4%）が1割強、「au PAY」（6.2%）、「LINE Pay」（3.9%）などが1割以下となっている。

(2) 利用してみたいスマホ決済サービス

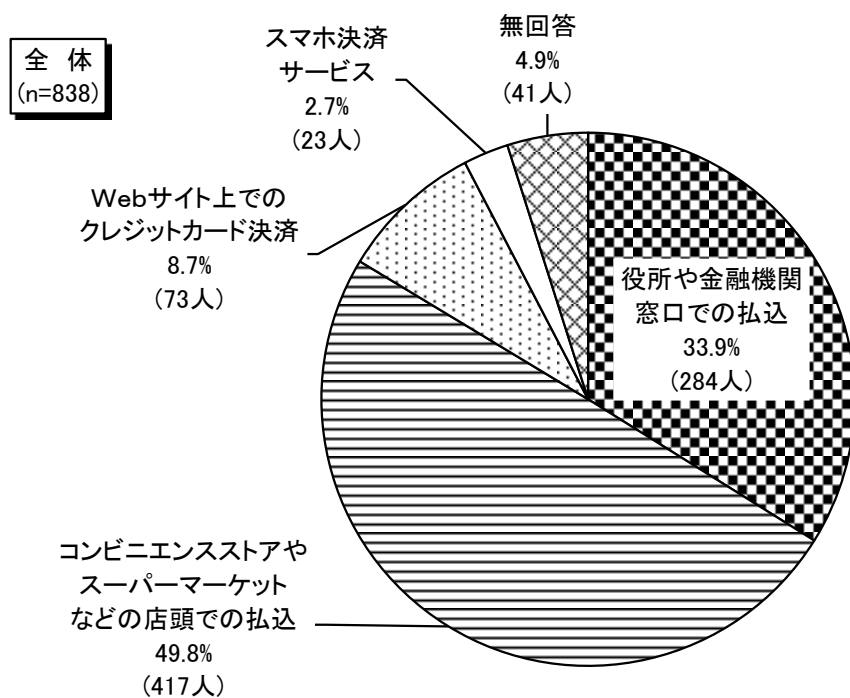
問6 今後、機会があれば利用してみたいと思うものがあれば、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



利用してみたいスマホ決済サービスは、「特にない」(66.6%)が最も多く、7割弱を占めている。次いで、「LINE Pay」(9.5%)と「Pay Pay」(9.4%)が約1割で拮抗している。

(3) 公共料金や税金の支払い方法

問7 公共料金や税金の支払いをする際、今のあなたの生活スタイルに最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



公共料金や税金の支払い方法は、「コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの店頭での払込」(49.8%)が最も多く、約半数を占めている。以下、「役所や金融機関窓口での払込」(33.9%)が3割強、「Webサイト上でのクレジットカード決済」(8.7%)が約1割、「スマホ決済サービス」(2.7%)が1割以下で続いている。

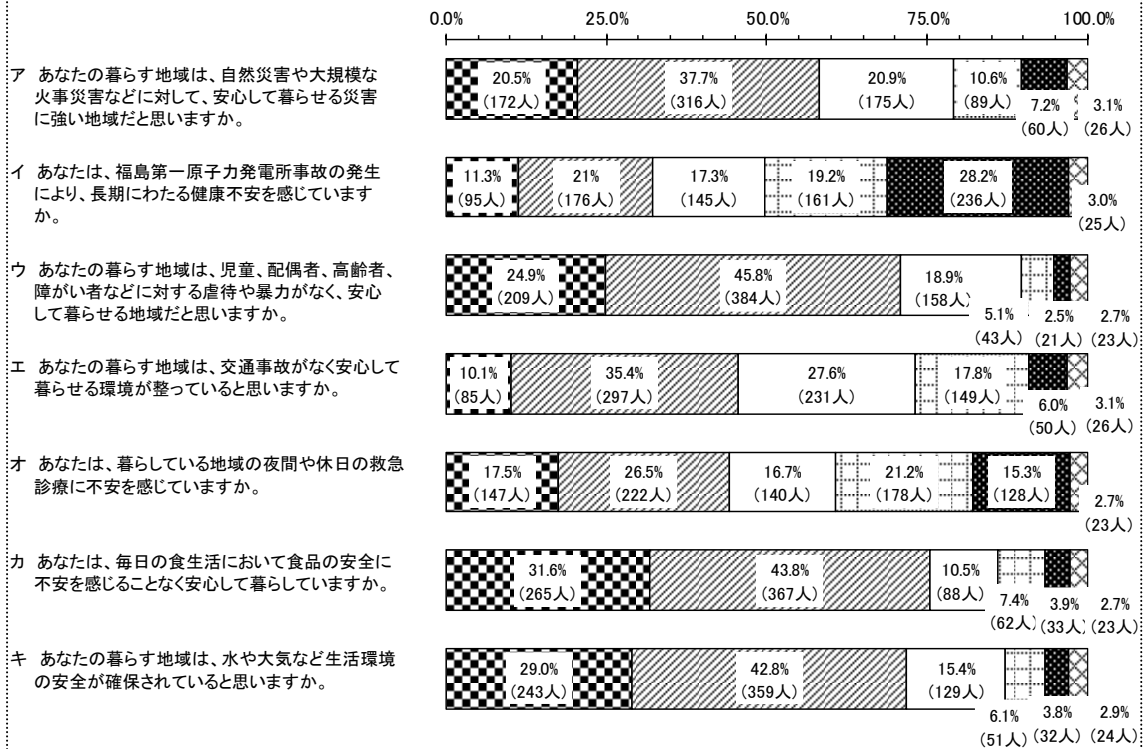
3. 安全で安心な県づくりについて

(1) 地域の安全・安心についての評価

問8 次にあげたア～キの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=838)

- はい
- どちらとも言えない・該当しない
- いいえ
- どちらかと言えば「はい」
- どちらかと言えば「いいえ」
- 無回答



「はい」と回答した人の割合をみると、〈カ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(31.6%)が最も高くなっている。以下、〈キ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(29.0%)、〈ウ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(24.9%)などとなっている。

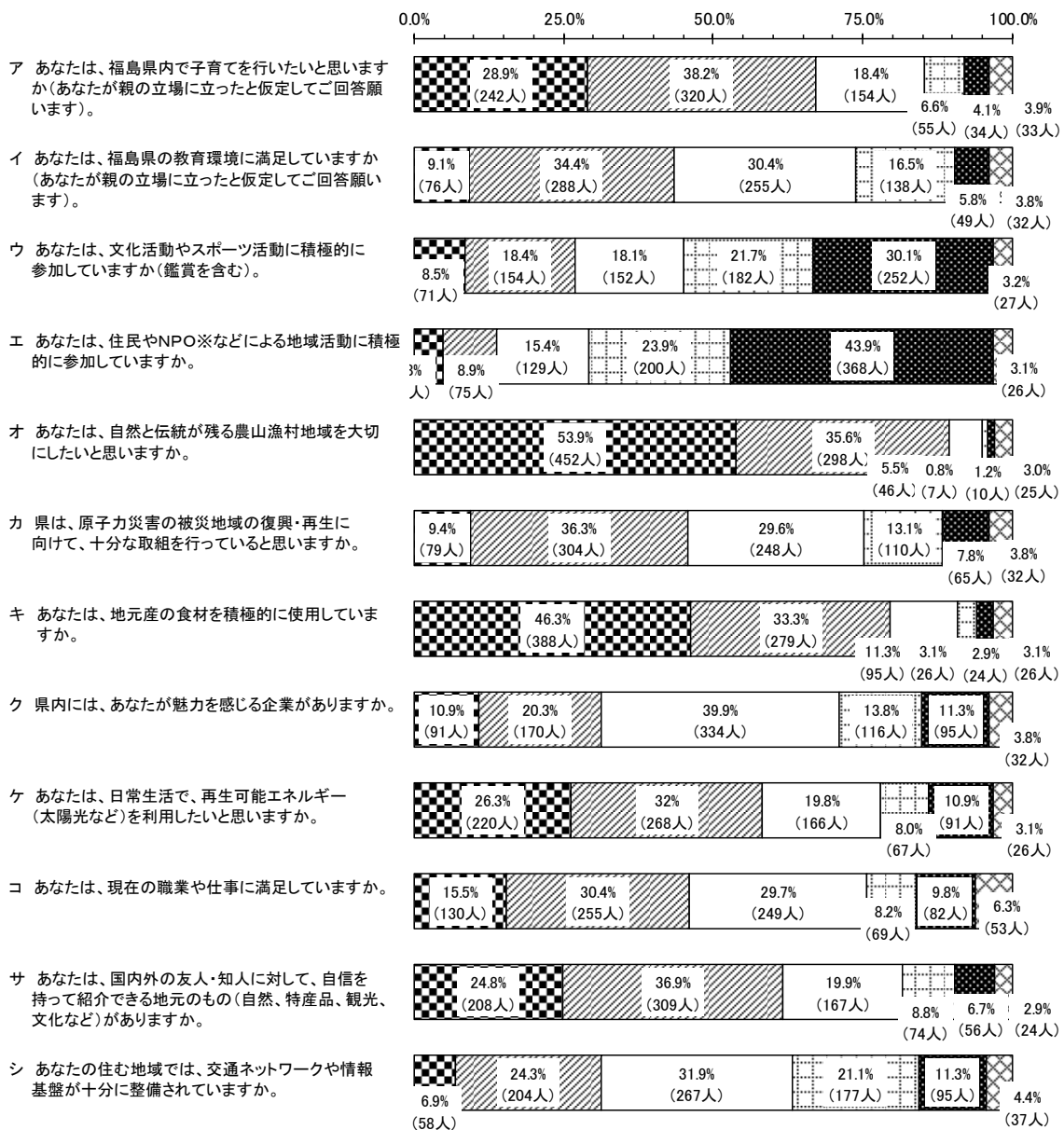
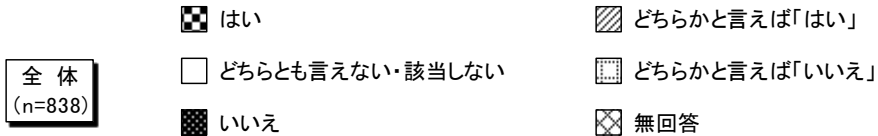
「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈カ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(75.4%)が最も高く、8割弱を占めている。以下、〈キ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(71.8%)と〈ウ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(70.7%)が約7割、〈ア あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(58.2%)が約6割、〈エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(45.5%)と〈オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(44.0%)が4割台、〈イ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(32.3%)が3割強で続いている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈イ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(47.4%)が最も高く、半数弱を占めている。以下、〈オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(36.5%)が4割弱、〈エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(23.8%)が2割強などとなっている。

4. 県総合計画について

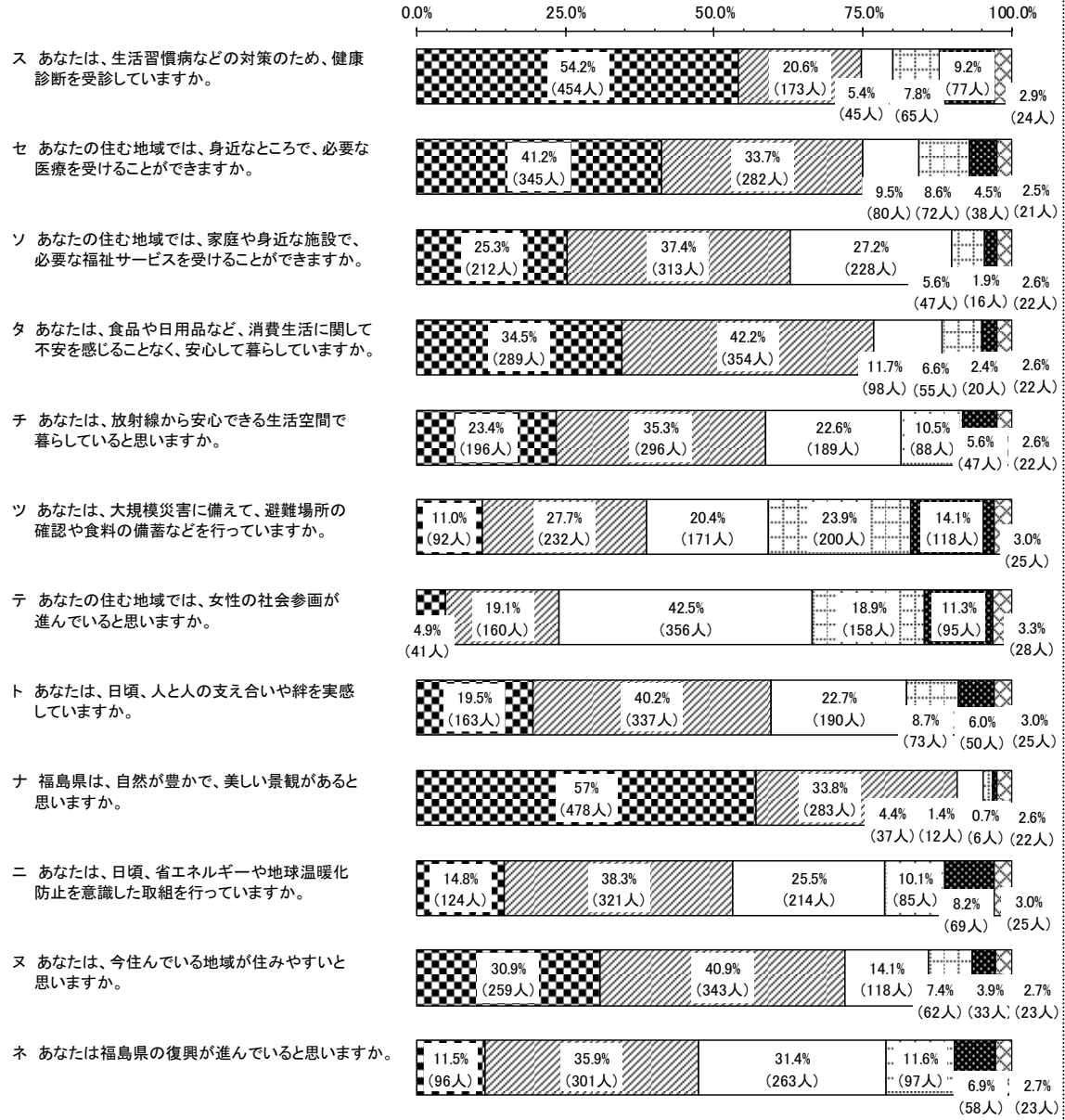
(1) 福島県の現状についての評価

問9 次にあげたア～ネの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



全体
(n=838)

- ☑ はい
- ☐ どちらとも言えない・該当しない
- ☒ どちらかと言えば「はい」
- ☒ どちらかと言えば「いいえ」
- ☑ いいえ
- ☒ 無回答



「はい」と回答した人の割合は、〈ナ 福島県は、自然が豊かで、美しい景観があると思いますか。〉(57.0%)が最も高く、6割弱となっている。次いで、〈ス あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(54.2%)と〈オ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(53.9%)が過半数を占めている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈ナ 福島県は、自然が豊かで、美しい景観があると思いますか。〉(90.8%)と〈オ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(89.5%)が高く、約9割を占めている。以下、〈キ あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(79.6%)、〈タ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(76.7%)、〈セ あなたの住む地域では、身近なところで、必要な医療を受けることができますか。〉(74.9%)、〈ス あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(74.8%)、〈ヌ あなたは、今住んでいる地域が住みやすいと思いますか。〉(71.8%)が7割台、〈ア あなたは、福島県内で子育てを行いたいと思いますか(あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います)。〉(67.1%)、〈ソ あなたの住む地域では、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができますか。〉(62.7%)、〈サ あなたは、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)がありますか。〉(61.7%)が6割台などとなっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈エ あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(67.8%)が最も高く、7割弱を占めている。以下、〈ウ あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(51.8%)が約半数、〈ツ あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(38.0%)が約4割などとなっている。

※【参考】NPO 特定非営利活動法人とは

特定の公益的・非営利活動を行うことを目的とする法人のこと。

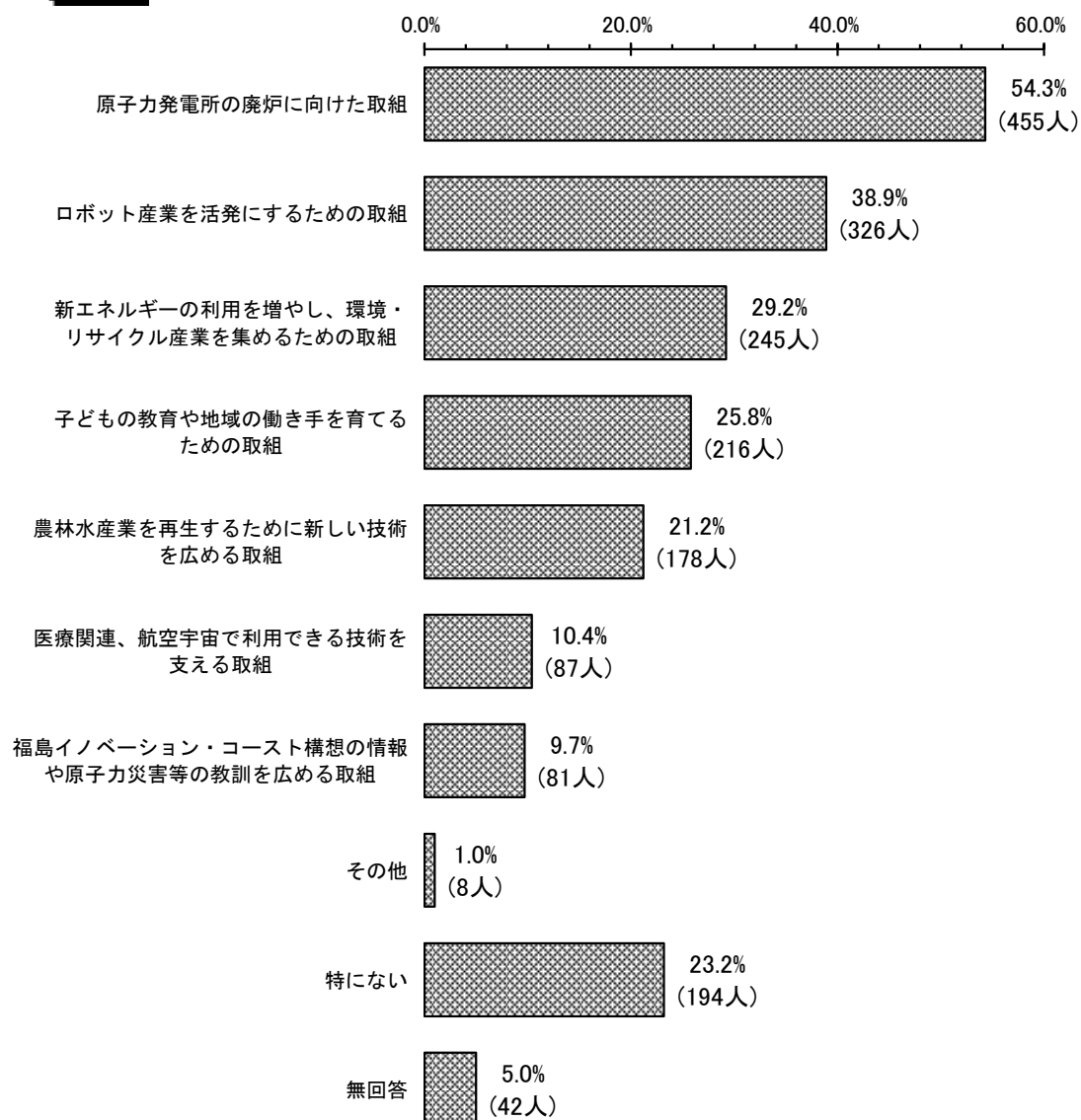
5. 福島イノベーション・コースト構想について

(1) 福島イノベーション・コースト構想※について知っている取組

問10 福島イノベーション・コースト構想について、あなたはどのような取組を知っていますか。

あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

全体
(n=838)



福島イノベーション・コースト構想について知っている取組は、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(54.3%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「ロボット産業を活発にするための取組」(38.9%)が約4割、「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(29.2%)が約3割などとなっている。

※【参考】福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想とは

福島イノベーション・コースト構想は、東日本大震災と原子力災害によって大きな被害を受けた浜通り地域等の産業を回復するため、この地域を新たな産業が次々と生まれる場所になることを目指すものです。

構想を実現するために、以下の分野を中心に取り組んでいます。

・原子力発電所の廃炉に向けた取組

廃炉国際共同研究センター（富岡町）での研究開発、地元企業を廃炉産業へ参入しやすくするための取組など。

・ロボット産業を活発にするための取組

福島ロボットテストフィールド（南相馬市）を活用したロボット・ドローン等の実証実験など。

・新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組

福島水素エネルギー研究フィールド（浪江町）での研究開発など。

・農林水産業を再生するために新しい技術を広める取組

自動運転トラクター、ドローンによる農薬散布など。

・医療関連、航空宇宙で利用できる技術を支える取組

健康状態の分析・確認ができる衣類の開発、空飛ぶクルマの開発など。

・子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組

ふたば未来学園（広野町）での教育活動、大学や地元企業等の力を借りた特色ある教育プログラムなど。

・福島イノベーション・コースト構想の情報や原子力災害等の教訓を広める取組

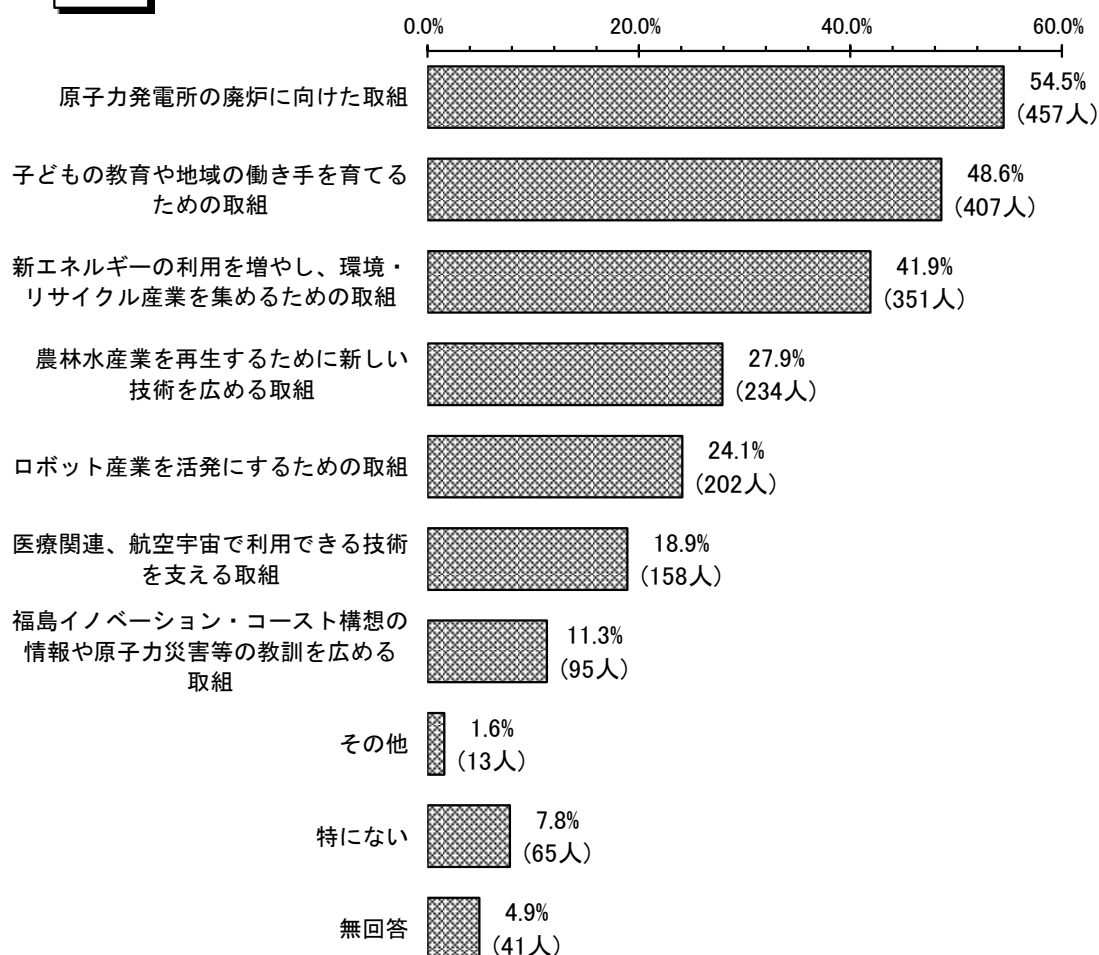
ホームページやSNS※での情報発信、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）など。

※SNS：ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録している利用者同士がインターネットを通じて交流できるサービスのこと。

(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組

問11 今後、福島イノベーション・コースト構想を進めていくために、県はどのような分野の取組を強化していけばよいと考えますか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=838)



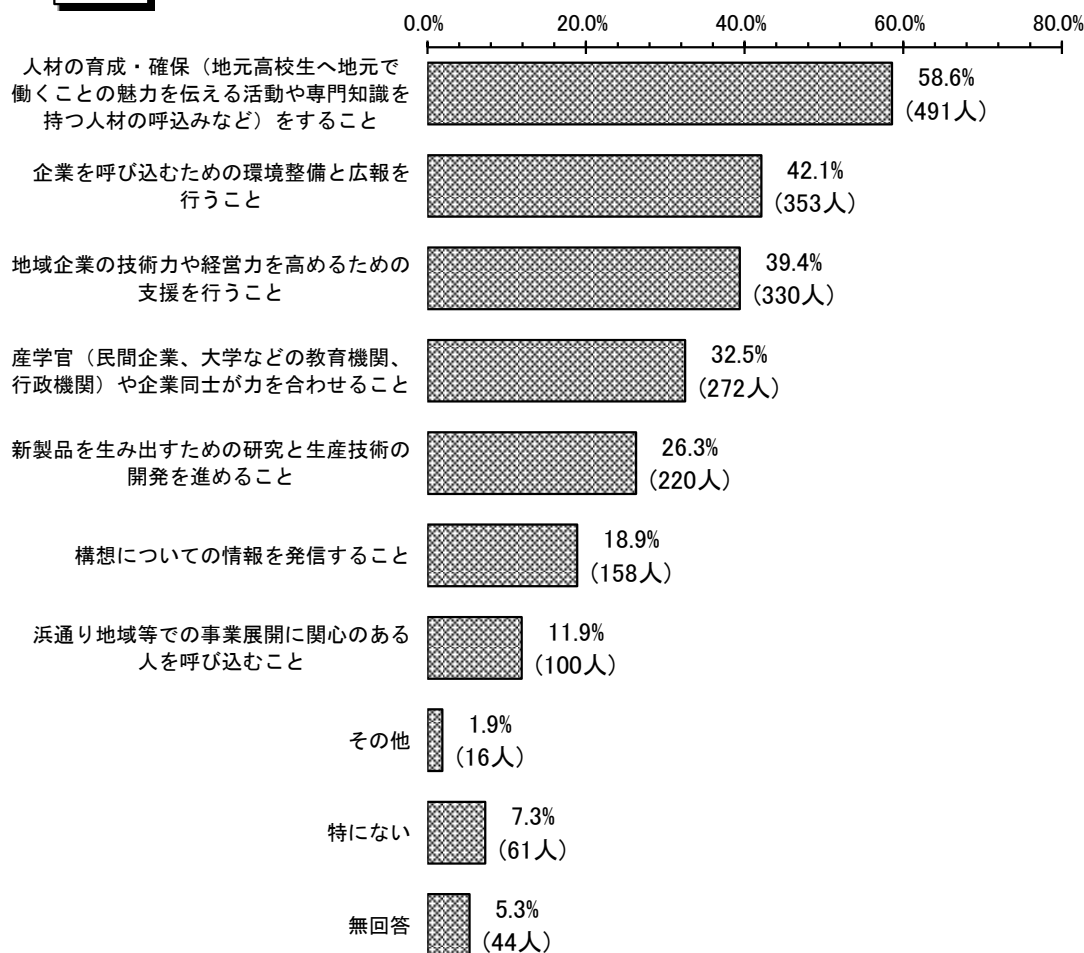
福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組については、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(54.5%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組」(48.6%)と「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(41.9%)が4割台、「農林水産業を再生するために新しい技術を広める取組」(27.9%)と「ロボット産業を活発にするための取組」(24.1%)が2割台となっている。

(3) 福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策

問12 今後、これらの取組をさらに進めるとともに、その効果がより地域の皆さんに届くようにするためには、どのような施策がよいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=838)

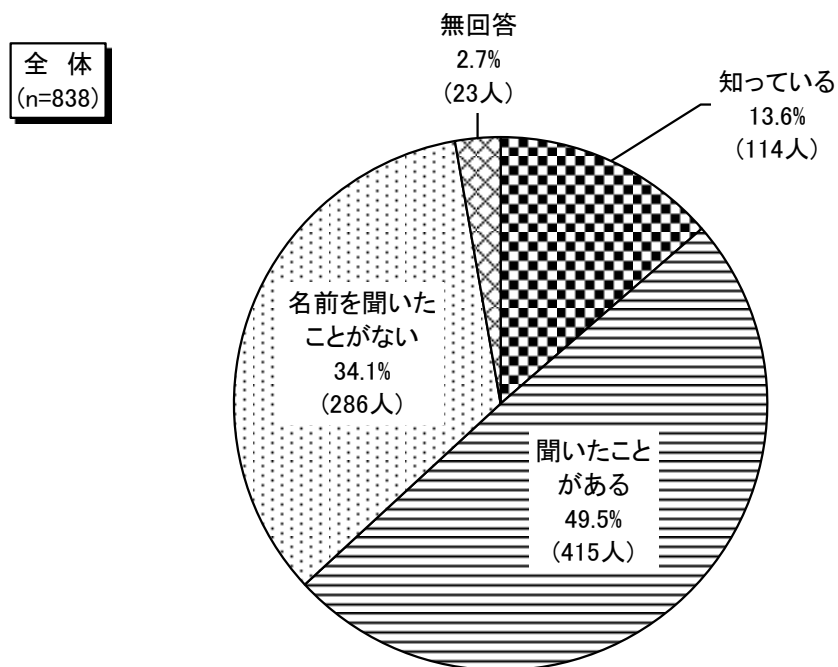


福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策については、「人材の育成・確保（地元高校生へ地元で働くことの魅力を伝える活動や専門知識を持つ人材の呼び込みなど）をすること」（58.6%）が最も多く、約6割となっている。以下、「企業を呼び込むための環境整備と広報を行うこと」（42.1%）が4割強、「地域企業の技術力や経営力を高めるための支援を行うこと」（39.4%）が約4割、「産学官（民間企業、大学などの教育機関、行政機関）や企業同士が力を合わせることを」（32.5%）が3割強などとなっている。

6. チャレンジふくしま県民運動について

(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

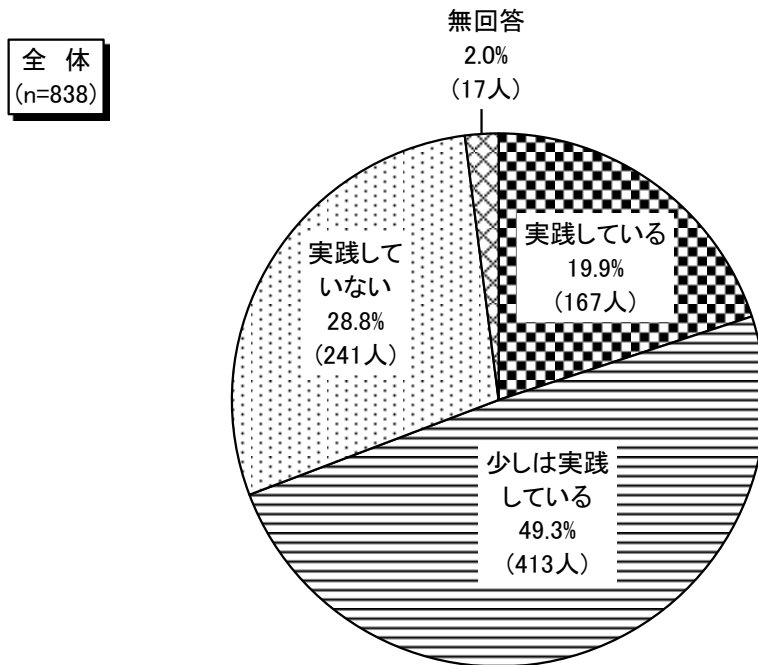
問13 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「聞いたことがある」(49.5%)が最も多く、約半数を占めている。次いで、「名前を聞いたことがない」(34.1%)が3割強、「知っている」(13.6%)が1割強で続いている。

(2) 心身の健康づくりの実践状況

問 14 例えば、減塩、ウォーキング（ウォークビズ※含む）など軽い運動、サークル活動のような心身の健康づくりを最近行っていますか。
最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



心身の健康づくりの実践状況については、「少しは実践している」（49.3％）が最も多く、約半数を占めている。次いで、「実践していない」（28.8％）が3割弱、「実践している」（19.9％）が約2割で続いている。

※【参考】ウォークビズとは

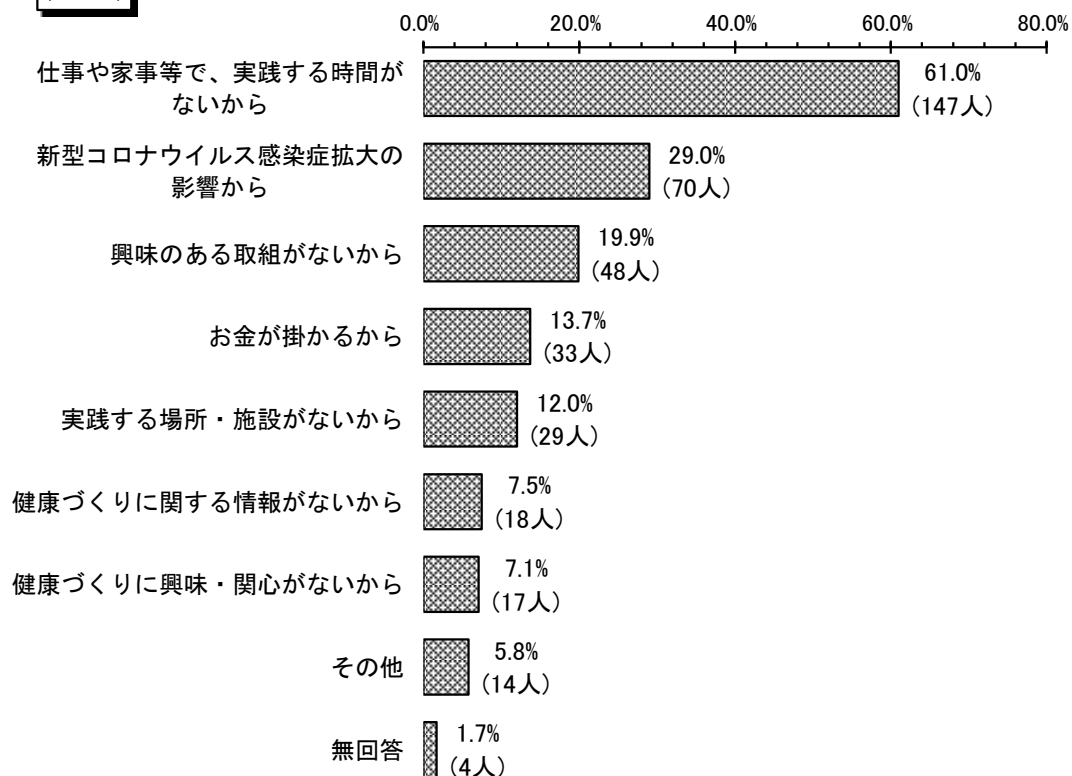
健康づくりのため、歩きやすい靴や服装で通勤・勤務すること。

(3) 心身の健康づくりを実践していない理由

(問14で「3 実践していない」と回答した方にお尋ねします。)

問15 健康づくりを実践していない理由について、
あてはまるものにいくつでも○を付けてください。

全体
(n=241)

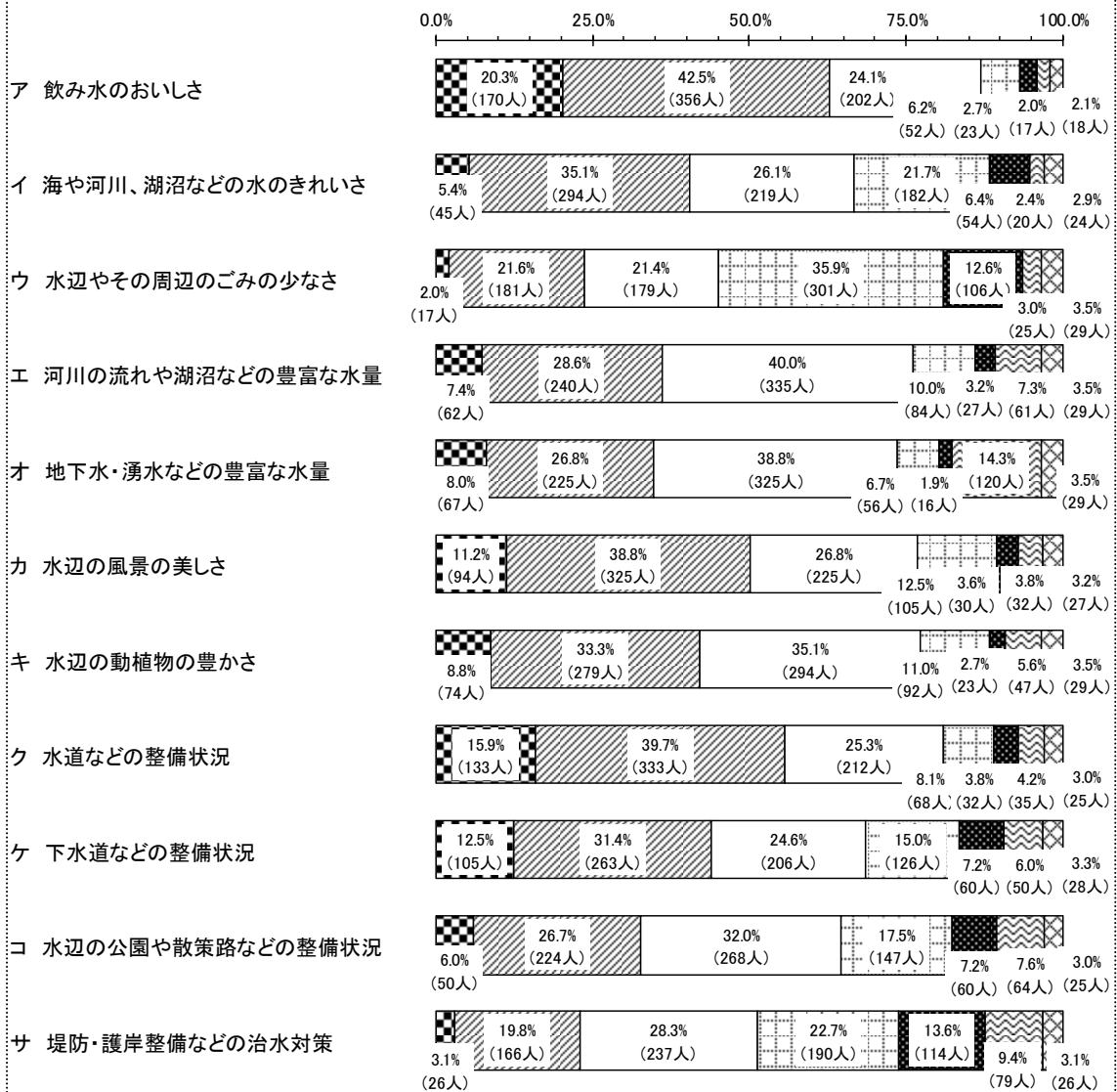
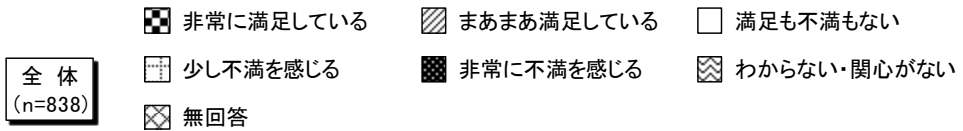


心身の健康づくりを実践していない理由は、「仕事や家事等で、実践する時間がないから」(61.0%)が最も多く、約6割となっている。以下、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響から」(29.0%)が約3割、「興味のある取組がないから」(19.9%)が約2割などとなっている。

7. 水環境について

(1) 水環境の満足度

問 16 あなたは、身近な「水」に関するア～サの項目についてどうお考えですか。
それぞれ1～6の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



「非常に満足している」と回答した人の割合をみると、〈ア 飲み水のおいしさ〉(20.3%)が最も高く、約2割となっている。以下、〈ク 水道などの整備状況〉(15.9%)、〈ケ 下水道などの整備状況〉(12.5%)が1割台などとなっている。

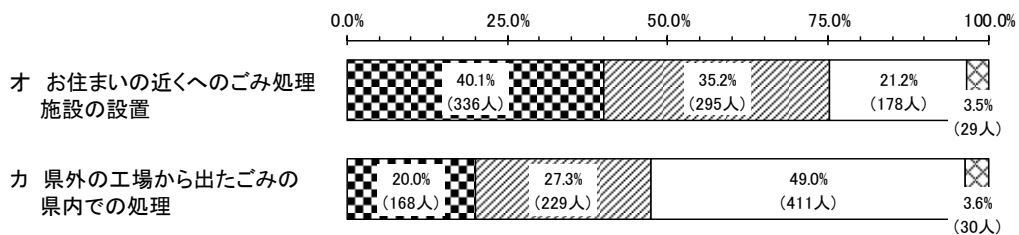
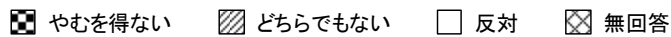
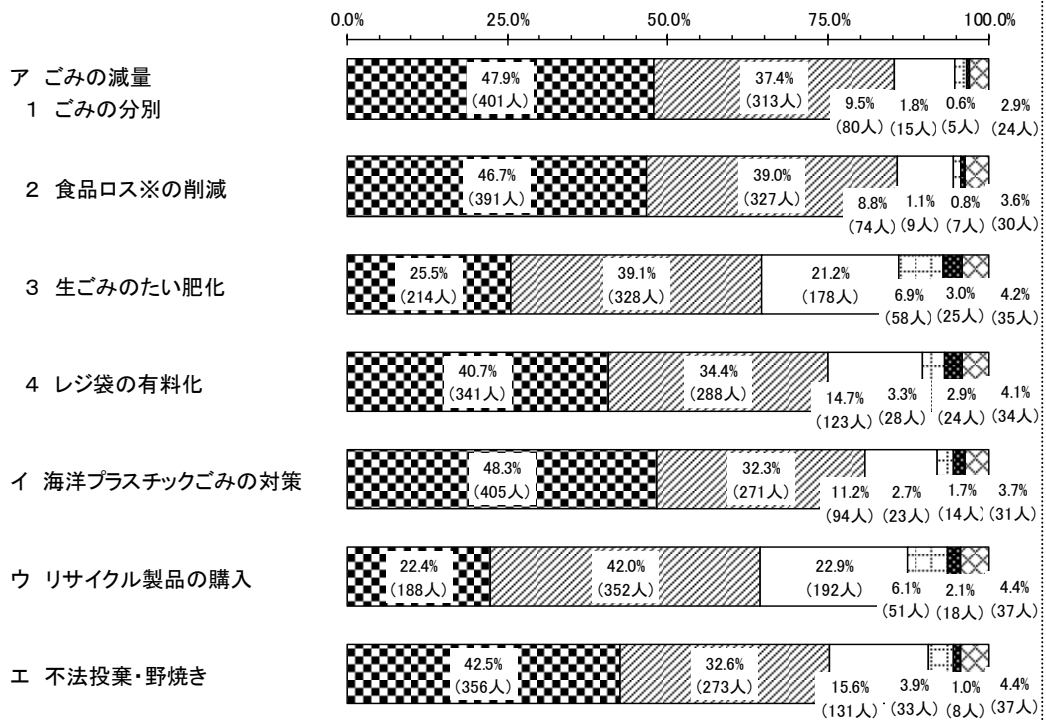
「非常に満足している」と「まあまあ満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈ア 飲み水のおいしさ〉(62.8%)が最も高く、6割強となっている。以下、〈ク 水道などの整備状況〉(55.6%)と〈カ 水辺の風景の美しさ〉(50.0%)が5割台、〈ケ 下水道などの整備状況〉(43.9%)、〈キ 水辺の動植物の豊かさ〉(42.1%)、〈イ 海や河川、湖沼などの水のきれいさ〉(40.5%)が4割台などとなっている。

一方、「非常に不満を感じる」と「少し不満を感じる」を合わせた『不満を感じる』計の割合は、〈ウ 水辺やその周辺のごみの少なさ〉(48.5%)が最も高く、約半数を占めている。以下、〈サ 堤防・護岸整備などの治水対策〉(36.3%)が4割弱、〈イ 海や河川、湖沼などの水のきれいさ〉(28.1%)が約3割などとなっている。

8. ごみ対策について

(1) ごみ対策への関心度と意向

問 17 あなたは、「ごみ」に関するア～カの項目についてどうお考えですか。
 それぞれ1～5（オとカは1～3）の中であてはまるもの1つに○をつけて
 ください。



アからエについて、「とても関心がある」と回答した人の割合をみると、〈イ 海洋プラスチックごみの対策〉(48.3%)、〈ア ごみの減量 1 ごみの分別〉(47.9%)、〈ア ごみの減量 2 食品ロスの削減〉(46.7%)が同程度に高くなっている。

「とても関心がある」と「少し関心がある」を合わせた『関心がある』計の割合をみると、〈ア ごみの減量 2 食品ロスの削減〉(85.7%)と〈ア ごみの減量 1 ごみの分別〉(85.3%)が同程度に高く、8割台となっている。次いで、〈イ 海洋プラスチックごみの対策〉(80.6%)が8割台、〈ア ごみの減量 4 レジ袋の有料化〉と〈エ 不法投棄・野焼き〉(ともに75.1%)が7割台、〈ア ごみの減量 3 生ごみのたい肥化〉(64.6%)と〈ウ リサイクル製品の購入〉(64.4%)が6割台となっている。

一方、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない』計の割合は、〈ア ごみの減量 3 生ごみのたい肥化〉(9.9%)が最も高く、次いで、〈ウ リサイクル製品の購入〉(8.2%)、〈ア ごみの減量 4 レジ袋の有料化〉(6.2%)となっている。

また、〈オ お住まいの近くへのごみ処理施設の設置〉について、「やむを得ない」と回答した人の割合(40.1%)は、「反対」と回答した人の割合(21.2%)より高くなっているが、〈カ 県外の工場から出たごみの県内での処理〉について、「やむを得ない」と回答した人の割合(20.0%)は、「反対」と回答した人の割合(49.0%)より低くなっている。

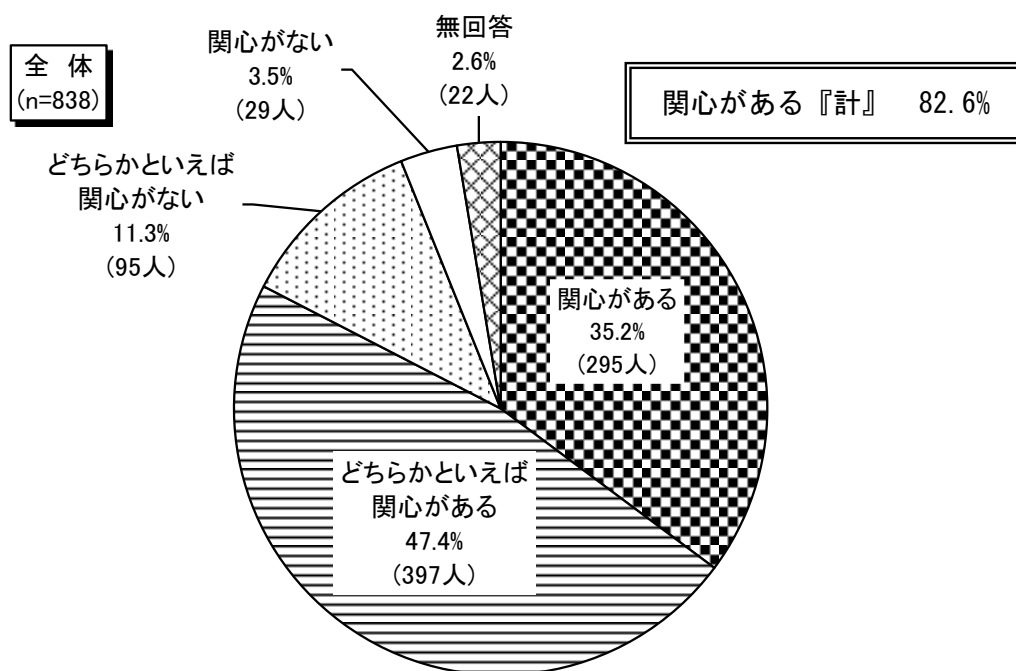
※【参考】食品ロスとは

食べ残し、売れ残りや期限が近いなどの理由で、食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。

9. 食育について

(1) 食育※の関心度

問 18 あなたは、「食育」に関心がありますか、それとも関心がありませんか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



食育の関心度について「関心がある」(35.2%)と「どちらかといえば関心がある」(47.4%)を合わせた『関心がある』計(82.6%)の割合は、8割強を占めている。

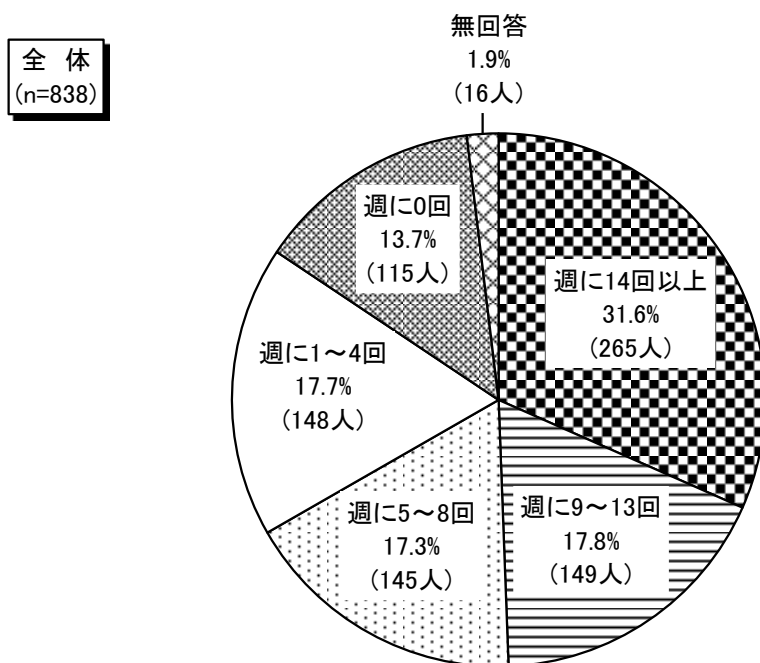
一方、「関心がない」(3.5%)と「どちらかといえば関心がない」(11.3%)を合わせた『関心がない』計(14.8%)の割合は、1割強にとどまっている。

※【参考】食育とは

食育(しょくいく)とは、2005年に成立した食育基本法においては、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置づけられており、様々な経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

(2) 共食の頻度

問 19 朝食及び夕食を複数人でコミュニケーションをとりながら食べることはどのくらいありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。



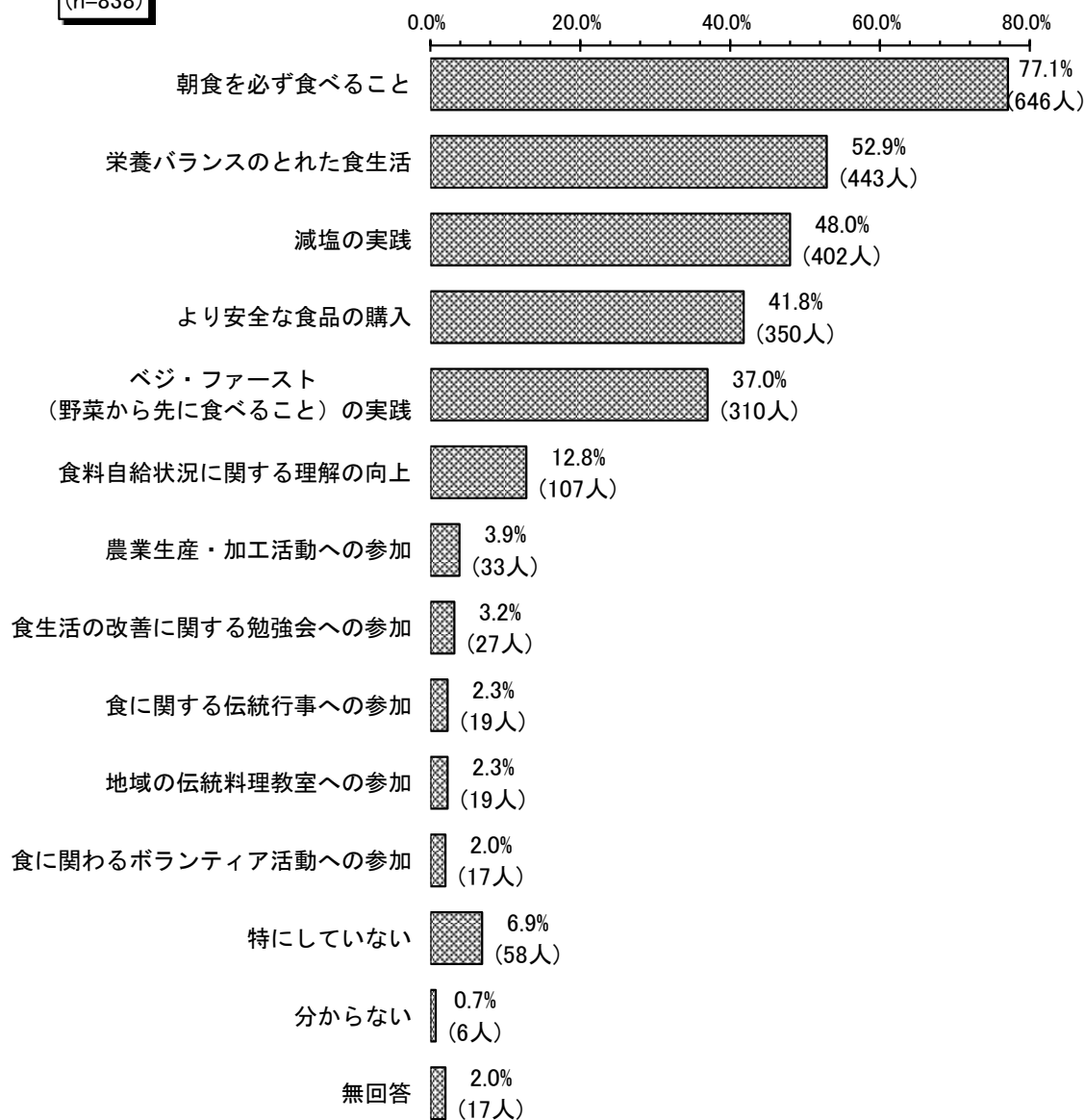
共食の頻度は「週に14回以上」(31.6%)が最も多く、約3割となっている。次いで、「週に9~13回」(17.8%)、「週に1~4回」(17.7%)、「週に5~8回」(17.3%)が2割弱で拮抗している。

(3) 実践している食育に関する活動

問 20 あなたは、日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する活動や行動を実践していますか。

あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

全体
(n=838)

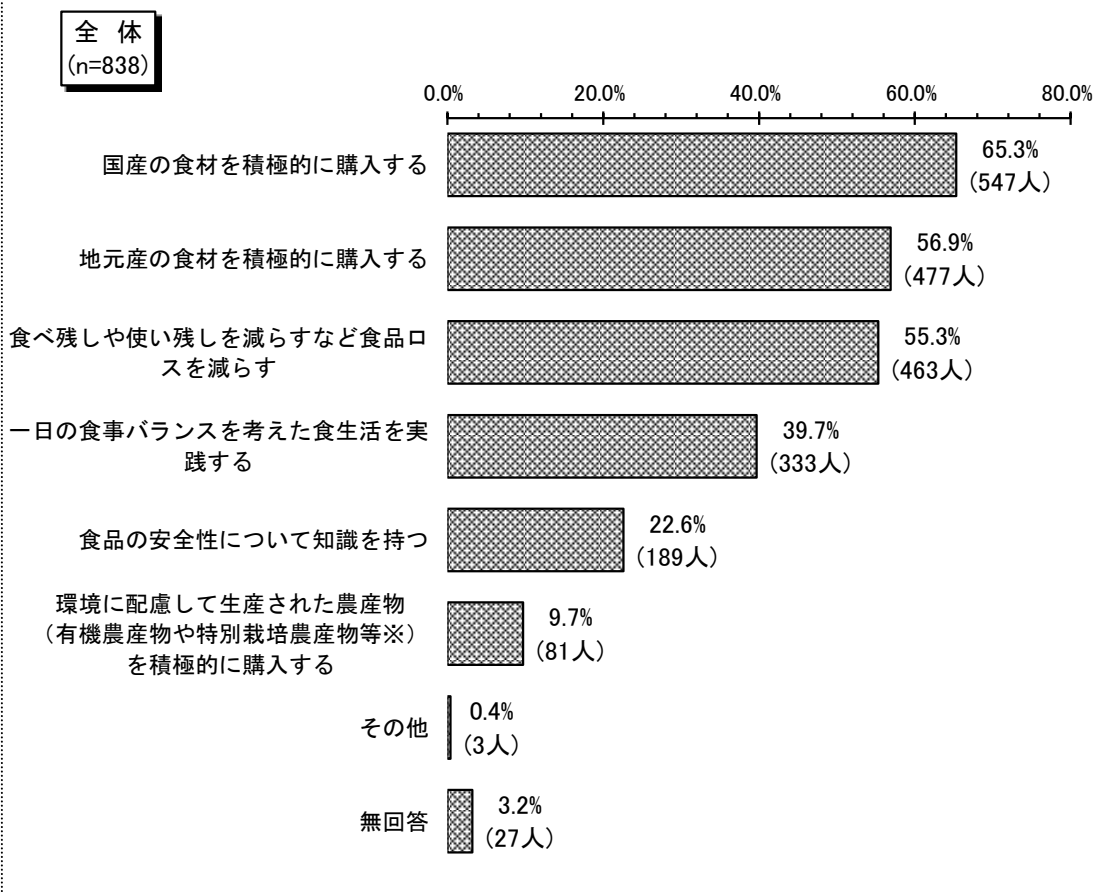


実践している食育に関する活動は、「朝食を必ず食べること」(77.1%)が最も多く、8割弱を占めている。以下、「栄養バランスのとれた食生活」(52.9%)が過半数、「減塩の実践」(48.0%)が約半数、「より安全な食品の購入」(41.8%)が約4割、「ベジ・ファースト(野菜から先に食べること)の実践」(37.0%)が4割弱などとなっている。

10. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践していること

問21 普段、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。
あてはまるものに3つまで○をつけて下さい。



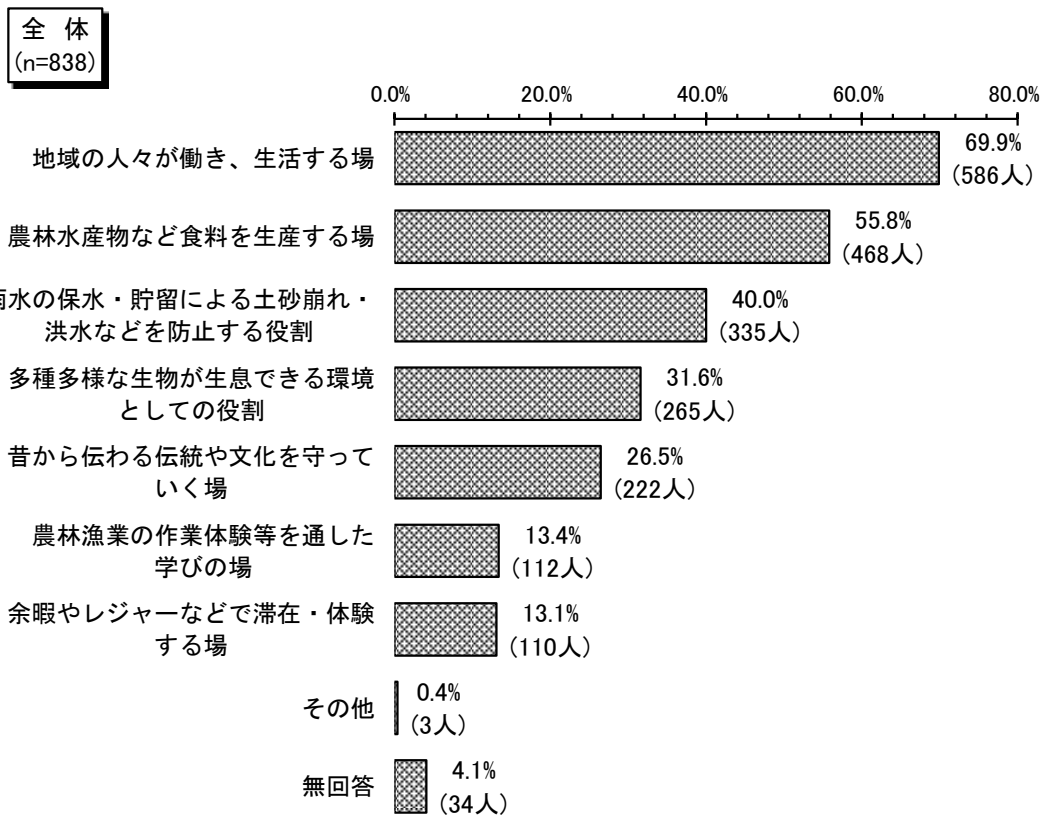
農林水産物の購入や食生活で実践していることは、「国産の食材を積極的に購入する」(65.3%)が多く、7割弱となっている。以下、「地元産の食材を積極的に購入する」(56.9%)と「食べ残しや使い残しを減らすなど食品ロスを減らす」(55.3%)が6割弱、「一日の食事バランスを考えた食生活を実践する」(39.7%)が約4割などとなっている。

※【参考】有機農産物・特別栽培農産物とは

どちらも農業による環境への負担をできる限り低減して栽培された農産物のこと。有機農産物は、化学的に合成された農薬や肥料を使用しないこと等により栽培されたもの、特別栽培農産物は、化学的に合成された農薬や肥料の使用量をこれまでより半分以下に減らして栽培されたもののこと。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問 22 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
あてはまるものに3つまで○をつけて下さい。



農山漁村の役割として期待することは、「地域の人々が働き、生活する場」(69.9%)が最も多く、約7割を占めている。以下、「農林水産物など食料を生産する場」(55.8%)が6割弱、「雨水の保水・貯留による土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(40.0%)が約4割、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(31.6%)が約3割などとなっている。

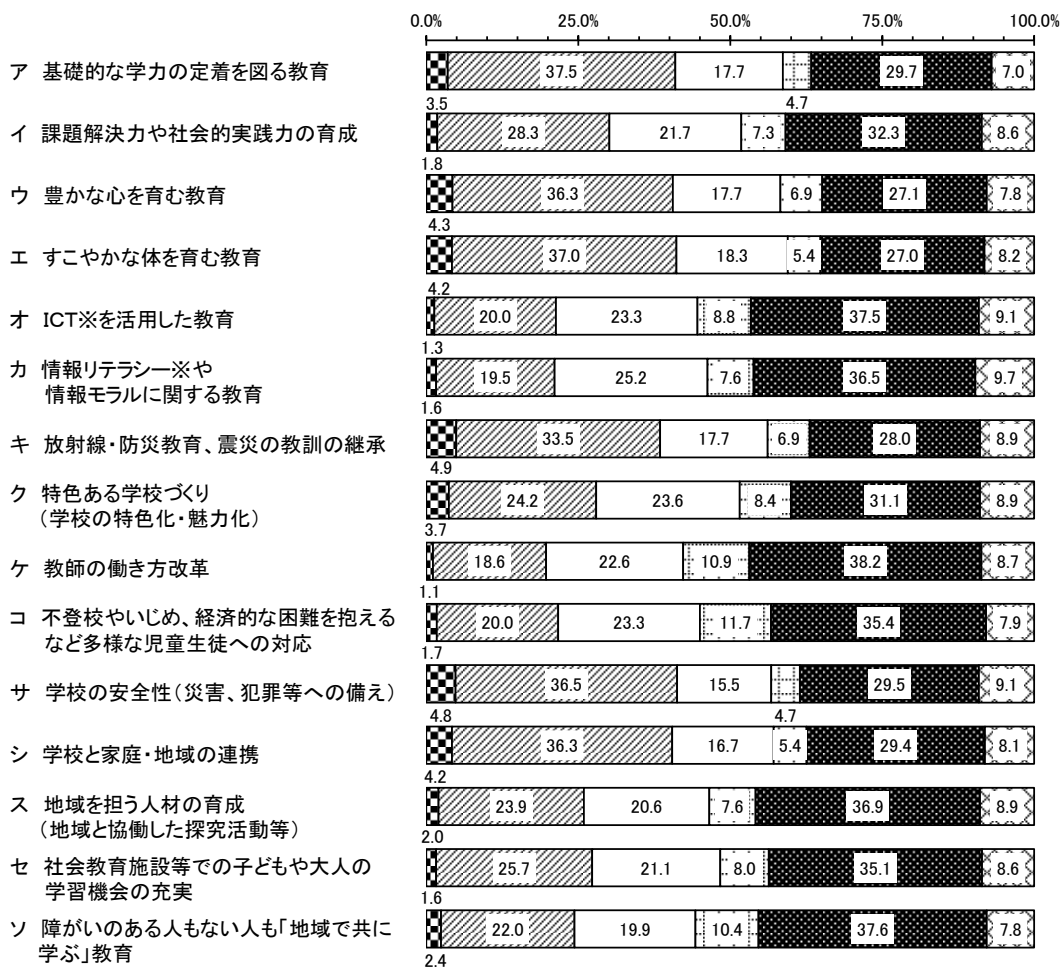
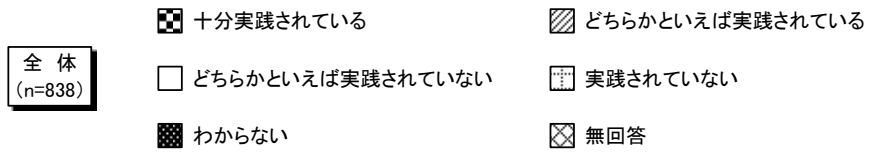
1.1. 福島県総合教育計画について

(1) 福島県の教育に対する評価

問 23 次にあげたA～Cの項目について、あなたはどのように感じていますか。

A 福島県の教育に対する評価

それぞれ1～5の中で、あてはまるもの1つに○をつけてください。



「十分実践されている」と回答した人の割合は、〈キ 放射線・防災教育、震災の教訓の継承〉(4.9%)と〈サ 学校の安全性(災害、犯罪等への備え)〉(4.8%)が高くなっている。

「十分実践されている」と「どちらかといえば実践されている」を合わせた『実践されている』計の割合をみると、〈サ 学校の安全性(災害、犯罪等への備え)〉(41.3%)、〈エ すこやかな体を育む教育〉(41.2%)、〈ア 基礎的な学力の定着を図る教育〉(41.0%)、〈ウ 豊かな心を育む教育〉(40.6%)、〈シ 学校と家庭・地域の連携〉(40.5%)が約4割で高くなっている。

一方、「実践されていない」と「どちらかといえば実践されていない」を合わせた『実践されていない』計の割合は、〈コ 不登校やいじめ、経済的な困難を抱えるなど多様な児童生徒への対応〉(35.0%)が最も高く、4割弱となっている。次いで、〈ケ 教師の働き方改革〉(33.5%)、〈カ 情報リテラシーや情報モラルに関する教育〉(32.8%)、〈オ ICTを活用した教育〉(32.1%)、〈ク 特色ある学校づくり(学校の特色化・魅力化)〉(32.0%)、〈ソ 障がいのある人もない人も「地域で共に学ぶ」教育〉(30.3%)が3割台で続いている。

※【参考】ICTとは

Information and Communication Technology の略で、情報通信技術のこと。

情報リテラシーとは

情報機器やITネットワークを活用して、情報・データを管理、活用する能力のこと。

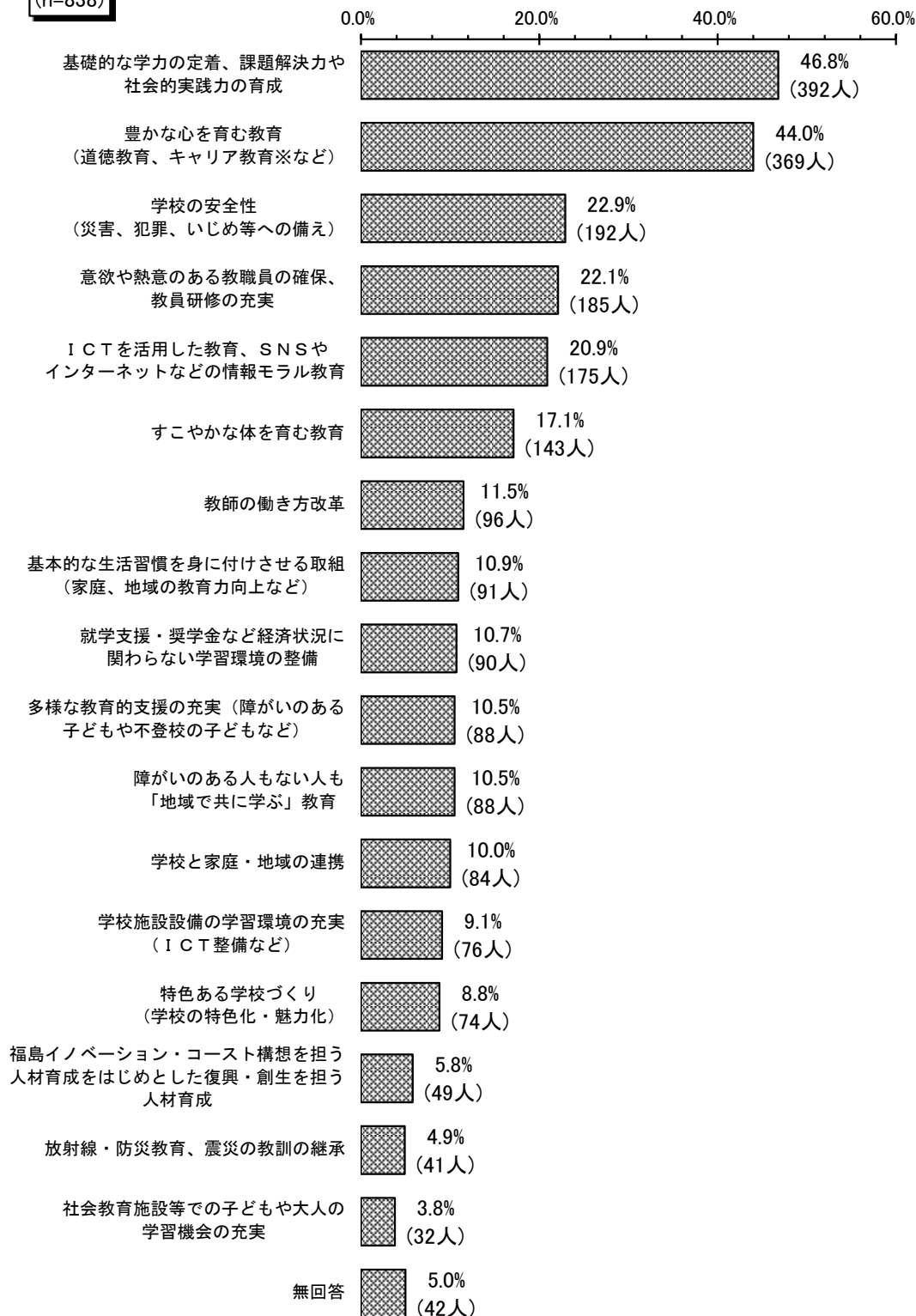
(2) 重要だと思う教育施策

問 23 次にあげたA～Cの項目について、あなたはどのように感じていますか。

B 今後の教育施策で特に重要だと思うものを次の中から選んでください。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=838)



重要だと思う教育施策は、「基礎的な学力の定着、課題解決力や社会的実践力の育成」(46.8%)が最も多く、半数弱を占めている。以下、「豊かな心を育む教育(道徳教育、キャリア教育など)」(44.0%)が4割強、「学校の安全性(災害、犯罪、いじめ等への備え)」(22.9%)と「意欲や熱意のある教職員の確保、教員研修の充実」(22.1%)、「ICTを活用した教育、SNSやインターネットなどの情報モラル教育」(20.9%)が2割強などとなっている。

※【参考】キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てること。

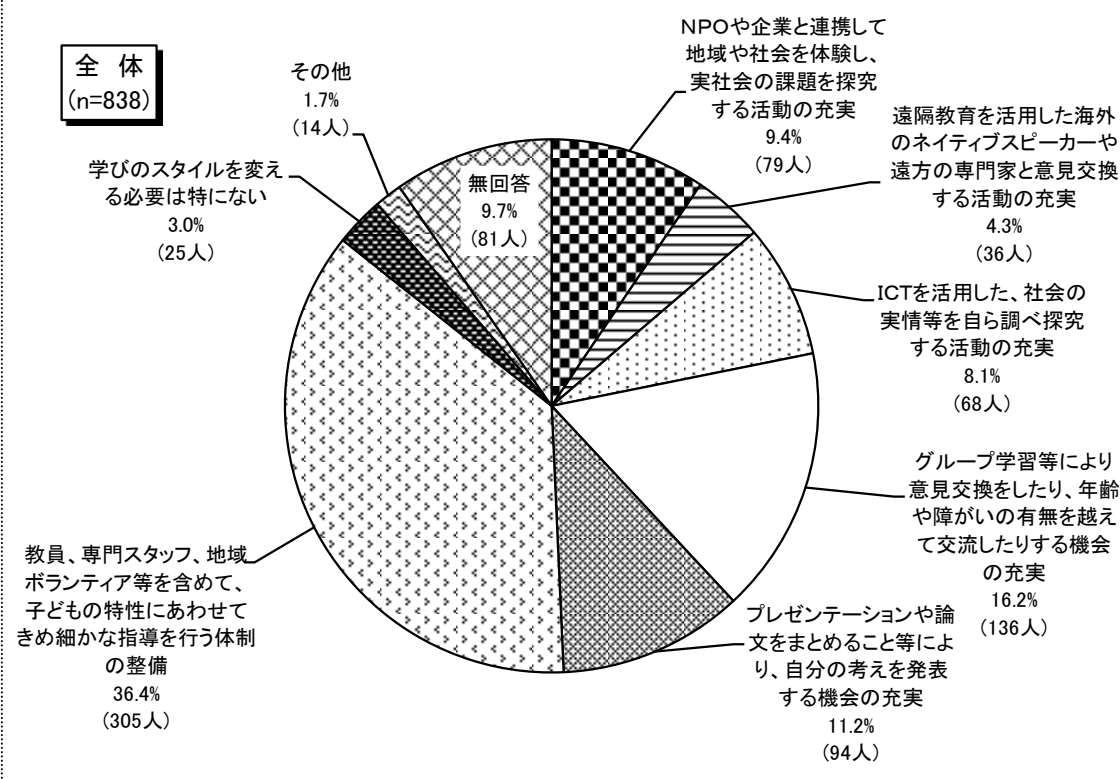
(3) 今後取り入れていくべき学び方

問 23 次にあげたA～Cの項目について、あなたはどのように感じていますか。

C 学校では基礎学力の定着に加えて、子どもたちが変化の激しい社会で未来を担っていく上で必要な力を養成する必要があります。

今後より一層取り入れていくべきと考える学び方を選んでください。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



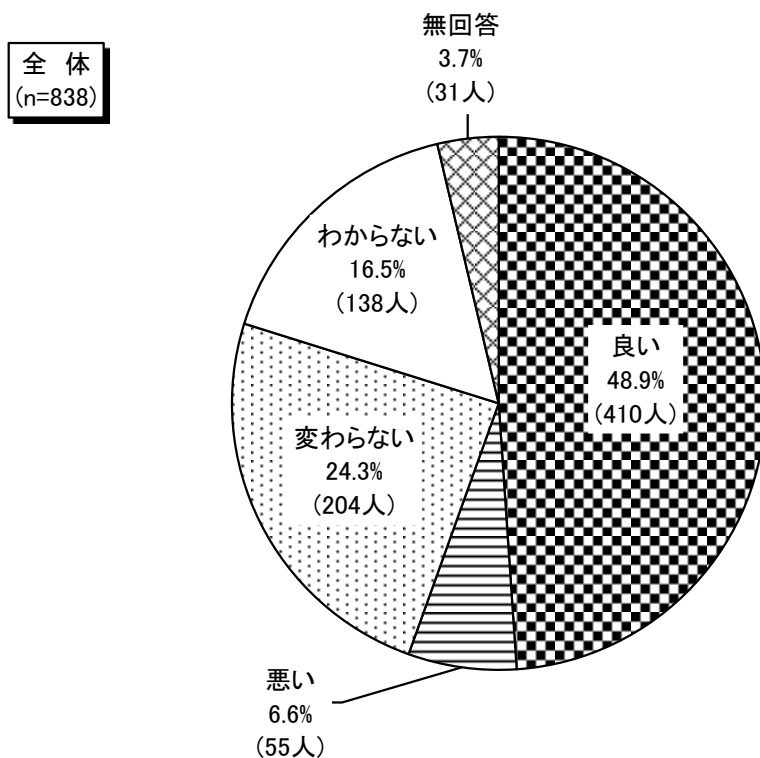
今後取り入れていくべき学び方は、「教員、専門スタッフ、地域ボランティア等を含めて、子どもの特性にあわせてきめ細かな指導を行う体制の整備」(36.4%)が最も多く、4割弱となっている。以下、「グループ学習等により意見交換をしたり、年齢や障がいの有無を越えて交流したりする機会の充実」(16.2%)が2割弱、「プレゼンテーションや論文をまとめること等により、自分の考えを発表する機会の充実」(11.2%)が約1割などとなっている。

1 2. 地域社会の安全・安心（治安）について

（1）居住地域の治安状況

問 24 現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の居住地域の治安状況が「良い」（48.9％）と思う人は約半数を占めている。一方、治安状況が「悪い」（6.6％）と思う人は1割未満にとどまっている。

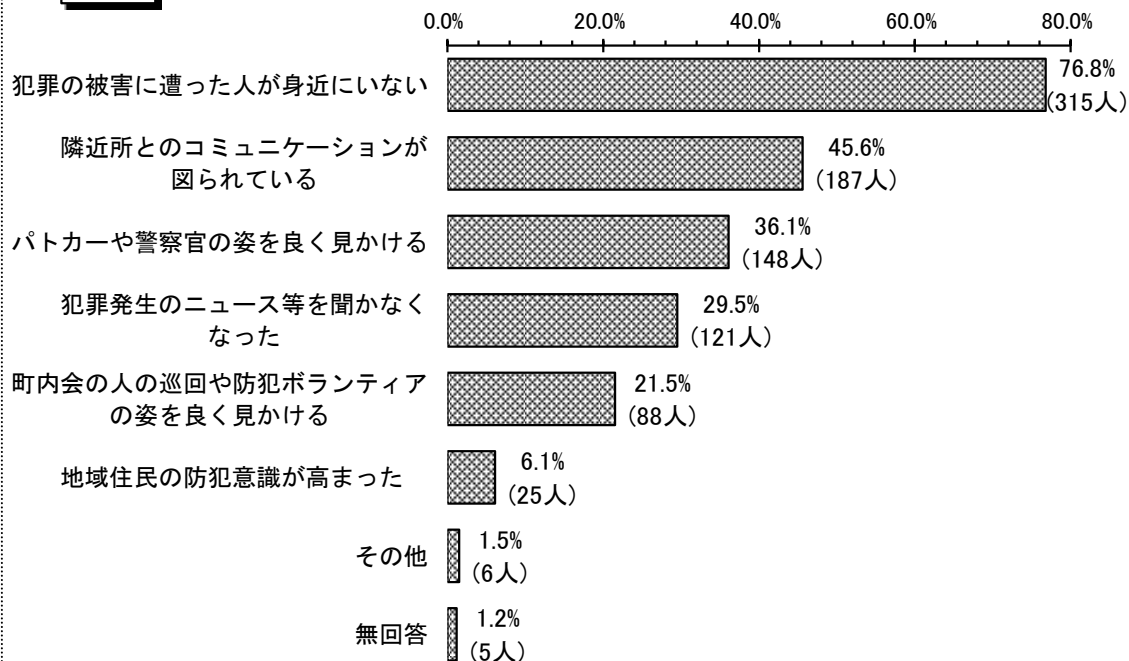
(2) 治安状況が良いと思う理由

(問 24 で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 24-1 問 24 で、良いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=410)



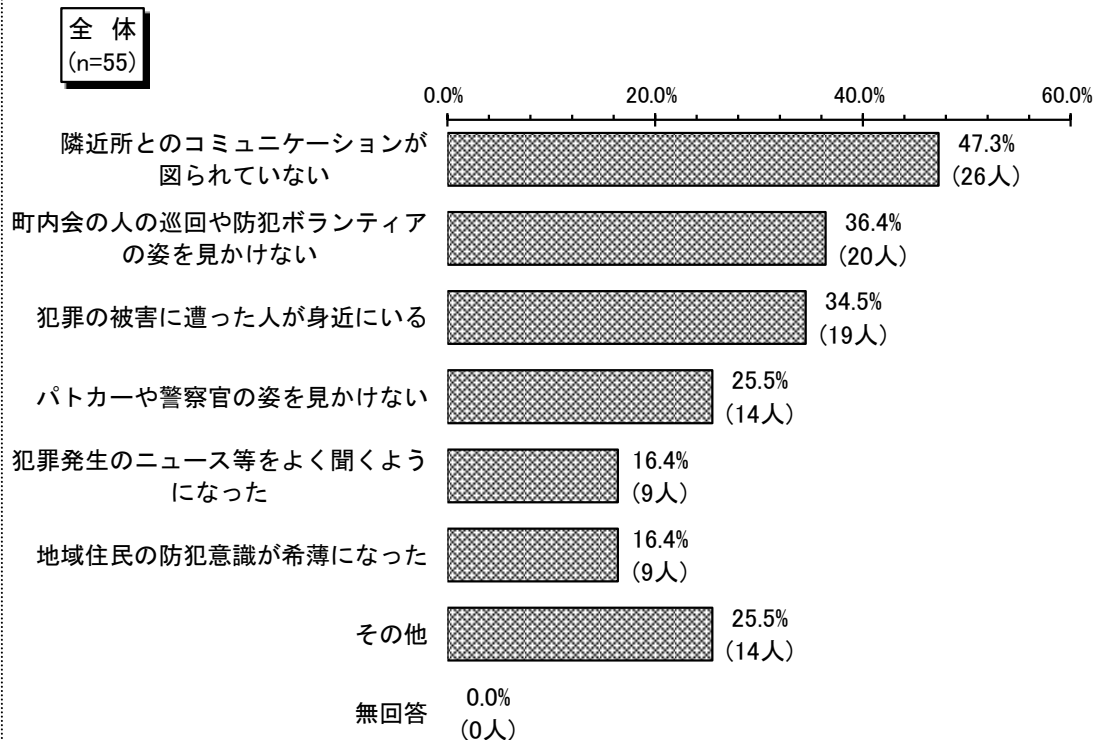
治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(76.8%)が最も多く、8割弱を占めている。以下、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(45.6%)が半数弱、「パトカーや警察官の姿を良く見かける」(36.1%)が4割弱、「犯罪発生のニュース等を聞かなくなった」(29.5%)が約3割などとなっている。

(3) 治安状況が悪いと思う理由

(問 24 で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 24-2 問 24 で、悪いと思う理由は何ですか。

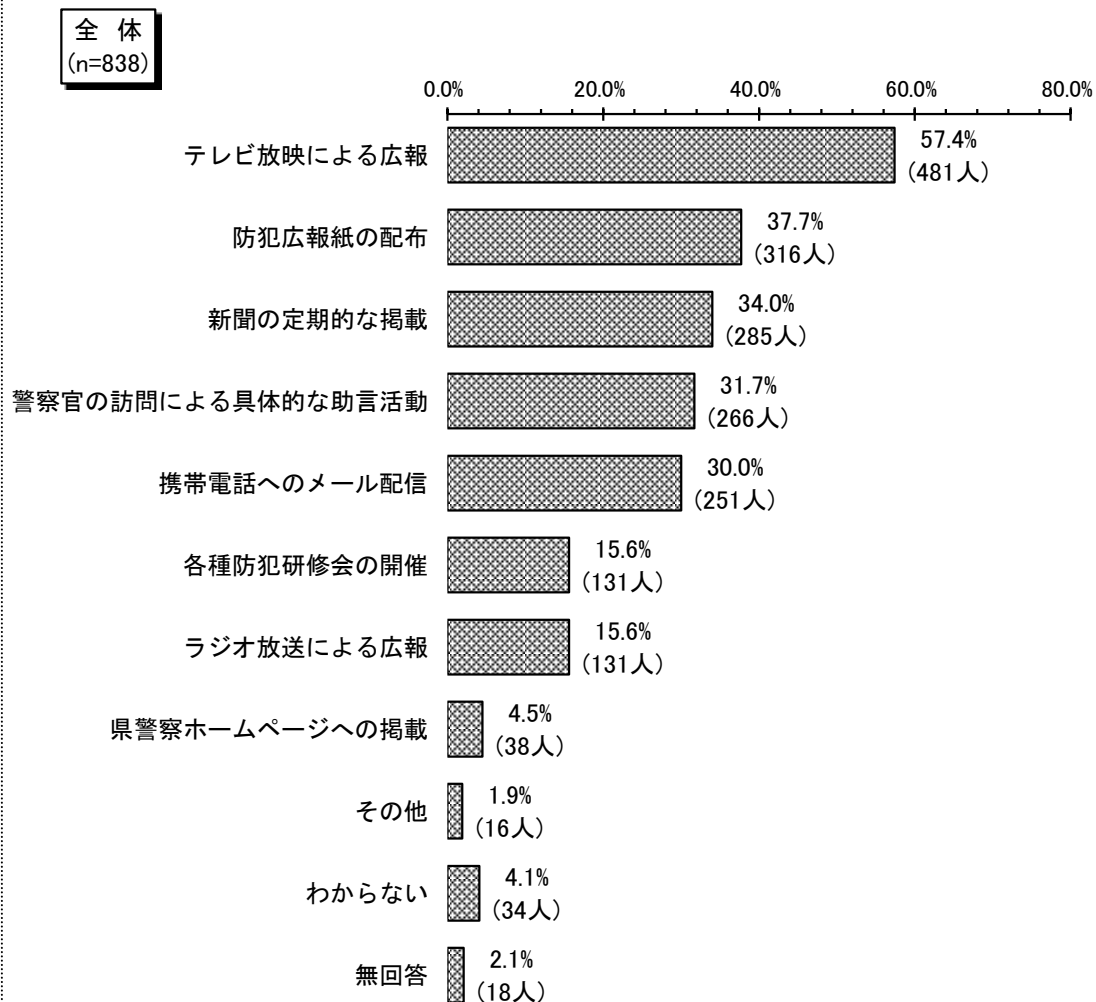
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



治安状況が悪いと思う理由は、「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」(47.3%)が最も高く、半数弱を占めている。以下、「町内会の人や巡回や防犯ボランティアの姿を見かけない」(36.4%)が4割弱、「犯罪の被害に遭った人が身近にいる」(34.5%)が3割強などとなっている。

(4) 犯罪発生状況等の情報提供方法

問 25 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、
どのような形で提供されるのがよいと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

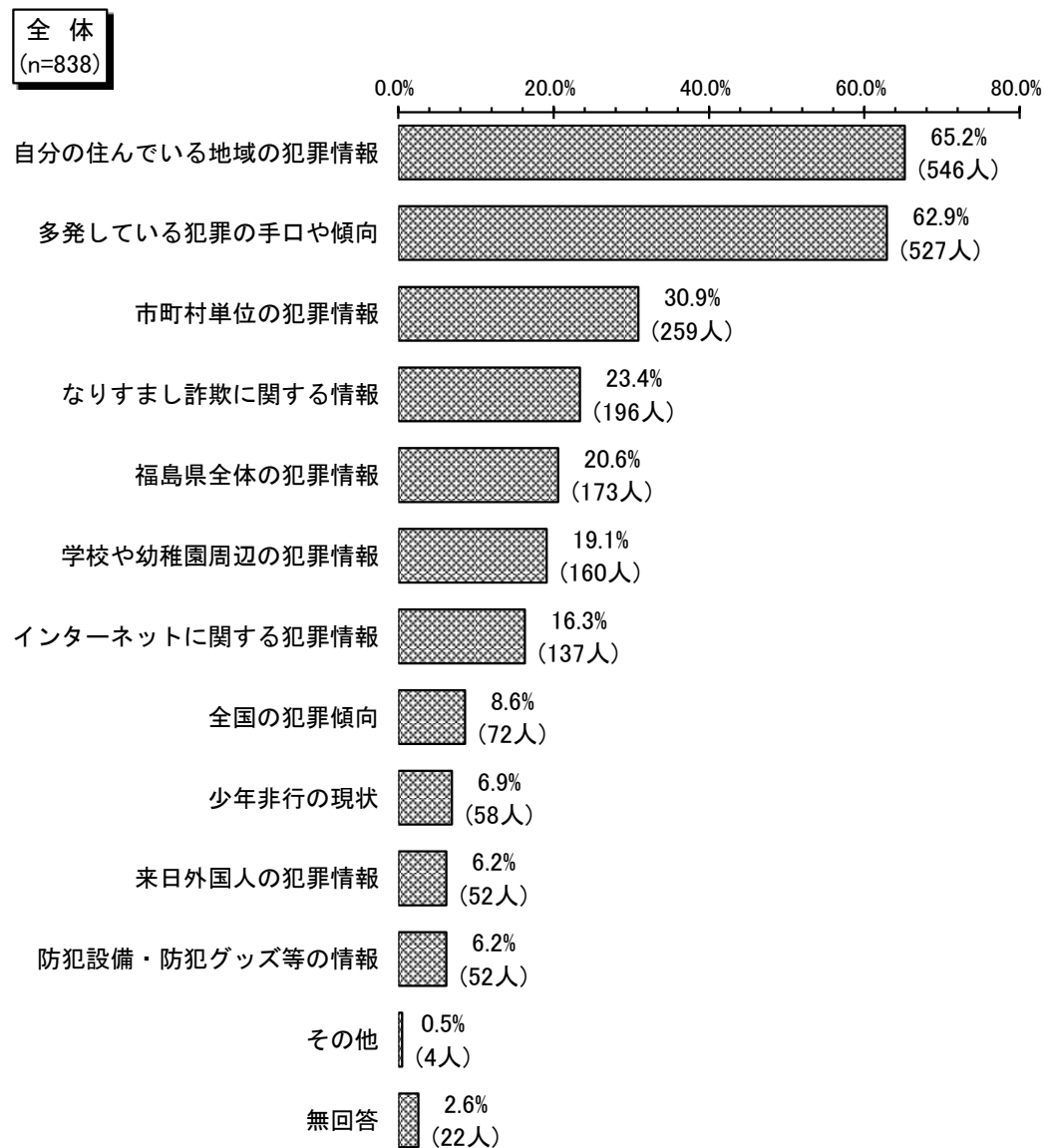


犯罪発生状況等の情報提供方法については、「テレビ放映による広報」(57.4%)が最も多く、6割弱となっている。以下、「防犯広報紙の配布」(37.7%)が4割弱、「新聞の定期的な掲載」(34.0%)が3割強、「警察官の訪問による具体的な助言活動」(31.7%)と「携帯電話へのメール配信」(30.0%)が約3割などとなっている。

(5) 犯罪に関して知りたい情報

問 26 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



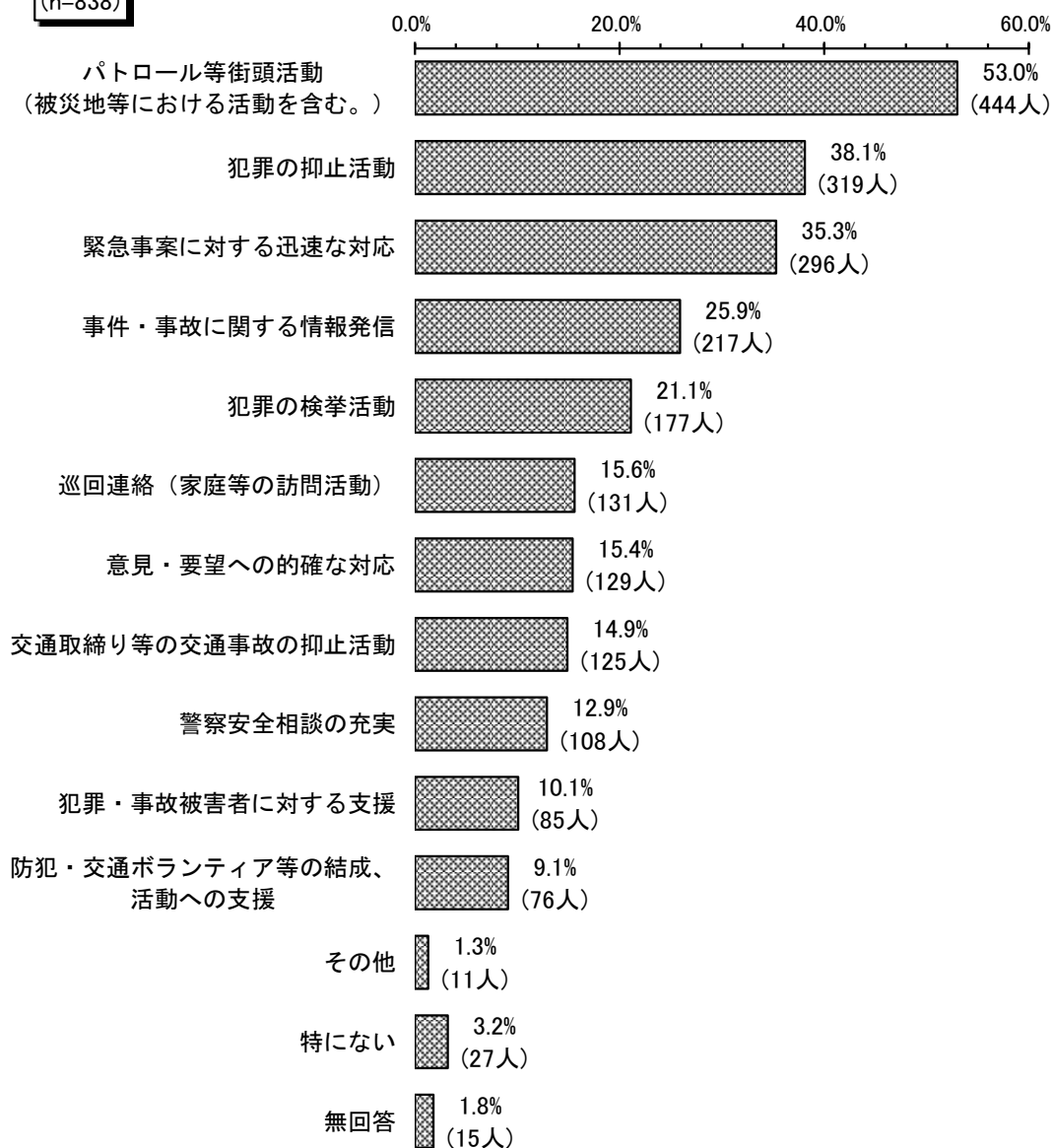
犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(65.2%)が最も多く、7割弱を占めている。次いで、「多発している犯罪の手口や傾向」(62.9%)が6割強で続いている。以下、「市町村単位の犯罪情報」(30.9%)が約3割、「なりすまし詐欺に関する情報」(23.4%)が2割強などとなっている。

(6) 警察に強化してほしい活動

問 27 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=838)



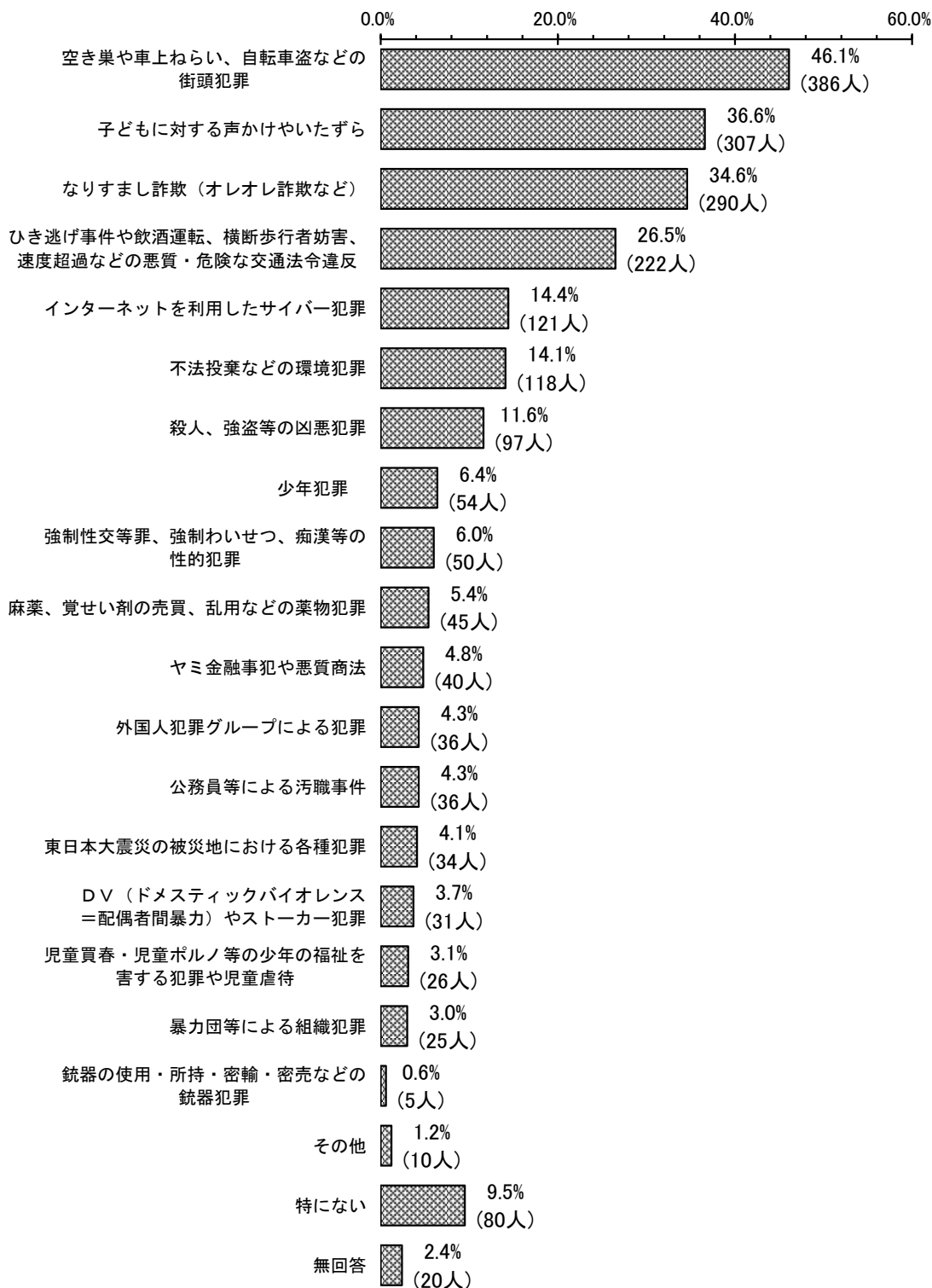
警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動 (被災地等における活動を含む。)」(53.0%) が最も多く、過半数を占めている。以下、「犯罪の抑止活動」(38.1%) が約4割、「緊急事案に対する迅速な対応」(35.3%) が4割弱、「事件・事故に関する情報発信」(25.9%) が3割弱などとなっている。

(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

問 28 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=838)

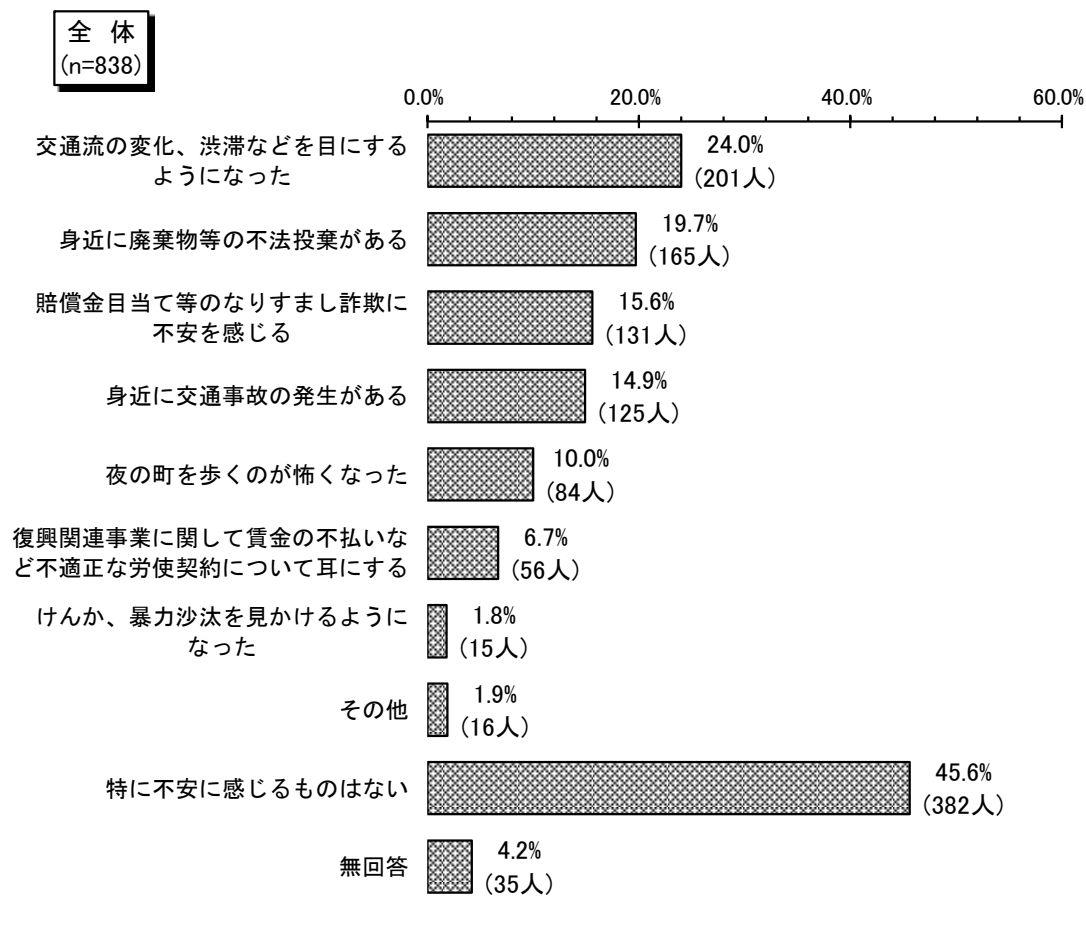


重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪」(46.1%)が最も多く、半数弱を占めている。以下、「子どもに対する声かけやいたずら」(36.6%)が4割弱、「なりすまし詐欺(オレオレ詐欺など)」(34.6%)が3割強、「ひき逃げ事件や飲酒運転、横断歩行者妨害、速度超過などの悪質・危険な交通法令違反」(26.5%)が3割弱などとなっている。

(8) 身近に感じる不安

問 29 震災から9年が経過しましたが、復興に伴い治安面で身近に感じる不安は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



身近に感じる不安については、「交通流の変化、渋滞などを目にするようになった」(24.0%)が最も多く、2割強となっている。次いで、「身近に廃棄物等の不法投棄がある」(19.7%)、「賠償金目当て等のなりすまし詐欺に不安を感じる」(15.6%)、「身近に交通事故の発生がある」(14.9%)、「夜の町を歩くのが怖くなった」(10.0%)が1割台で続いている。

なお、「特に不安に感じるものはない」(45.6%)が半数弱を占めている。

Ⅲ 調査票様式

IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧

令和元年度（11項目32問） 標本数 1,300 回収率 47.5%

- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) 安全で安心な県づくりについて
- (3) 県総合計画について
- (4) 福島イノベーション・コースト構想について
- (5) 土地利用について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 生涯学習について
- (8) 生物多様性について
- (9) ユニバーサルデザインについて
- (10) 農林水産業について
- (11) 地域社会の安全・安心（治安）について

平成30年度（11項目27問） 標本数 1,300 回収率 49.1%

- (1) 福島イノベーション・コースト構想について
- (2) 復興に関する情報発信について
- (3) チャレンジふくしま県民運動について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 水に関する意識について
- (7) 水道水の放射線物質検査について
- (8) 公共交通について
- (9) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (10) 安全で安心な県づくりについて
- (11) 県総合計画について

平成29年度（9項目26問） 標本数 1,300 回収率 54.7%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 福島イノベーション・コースト構想について
- (3) 買い物環境について
- (4) 水に関する意識について
- (5) 農林水産業について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成28年度（7項目26問） 標本数 1,300 回収率 54.3%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 農林水産業について
- (3) 生物多様性について
- (4) 高校教育について
- (5) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (6) 安全で安心な県づくりについて
- (7) 県総合計画について

平成27年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 54.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 青少年の健全育成について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成26年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 57.0%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 食育について
- (4) 農林水産業について
- (5) 廃棄物対策について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成25年度（8項目24問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 救急医療について
- (4) 農林水産業について
- (5) 生物多様性について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成24年度（9項目33問） 標本数1,300 回収率60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数1,300 回収率63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について
- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数1,300 回収率60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数1,300 回収率58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数1,300 回収率59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地域温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。”県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について
- (6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

令和2年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

福島県 総務部 県民広聴室

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話 (024) 521-7013